

水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会



JAPAN
LIFESAVING
ASSOCIATION

ANNUAL REPORT 2025



公益財団法人日本ライフセービング協会(JLA)は、
国際ライフセービング連盟(ILS)の日本代表機関です。
本協会の認定する資格は、国際資格に準拠しています。

全国205か所の海水浴場の 監視救助活動報告 2025夏のレスキュー

Emergency Care



意識なしの
溺者の救助

11人

Preventive Action



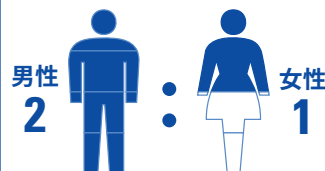
意識のある人の
溺者の救助

552人

Who &
When

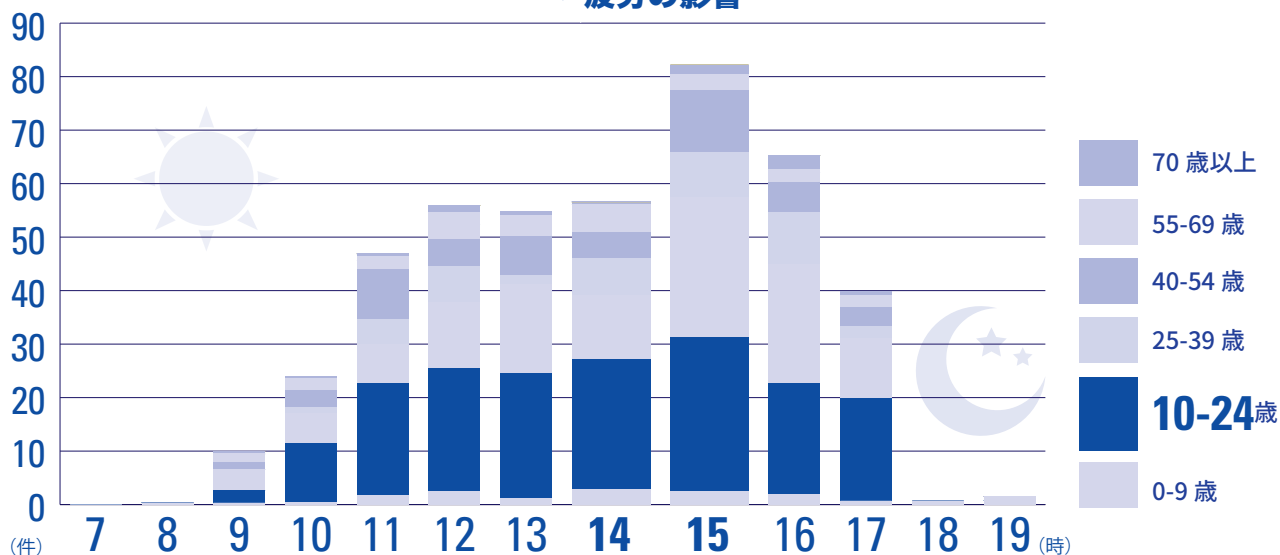
10～24歳の
事故が多い

男性は女性の2倍
救助された



14～15時に多い理由

- 昼食後の活動
- 遊び慣れた頃
- 疲労の影響



※日本ライフセービング協会 (JLA) の加盟クラブが活動する全国の監視活動エリア 205 か所
(海水浴場 203 か所 + 湖水浴場 2 か所) より集計可能なデータを対象にまとめました。

溺れは防止できます 海に行く前にできる“そなえ”

水辺に出かける際は、ぜひ遊びに行く先の天気予報を確認してください。現地では、すぐに水に入らずに、「泳いで良い場所か?」「風の強さや向きは?」「離岸流はないか?」などを観

察してください。ライフジャケットの着用も事故防止に有効です。普段から、どうすれば溺れないか「知っている」「体験する」「行動する」ことで、利用者自身が溺れを防止できます。日本ラ

イフセービング協会が提供する水辺の事故防止コンテンツ、プログラムを積極的に利用してください。

水辺の事故未然防止活動(海のヒヤリハット)



离岸流に関する注意喚起

21,095人

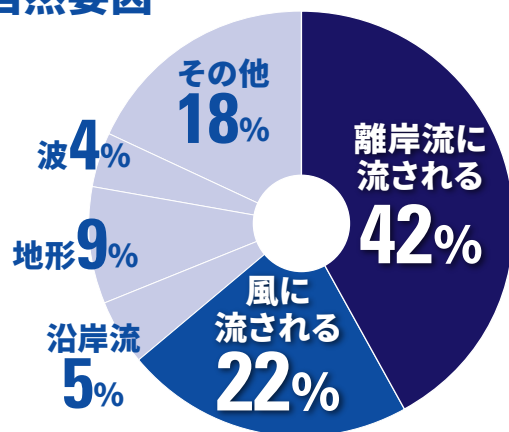


飲酒に関する注意喚起

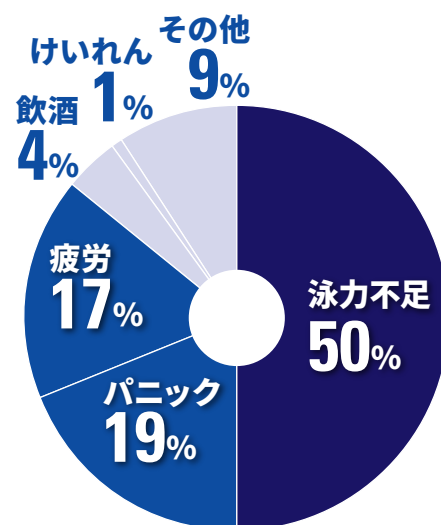
10,062人

Why

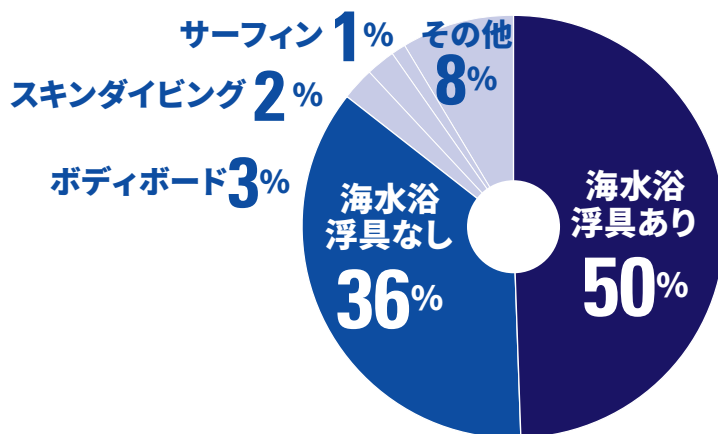
自然要因



個人要因



溺れの行為



国際ライフセービング連盟に準拠した資格を持つ ライフセーバーの存在

自然要因でもっとも多いレスキューの要因は、「離岸流に流される」です。同時に、ライフセーバーはおよそ2万人におよぶ海水浴場利用者へ離岸流の注意喚起をしており、深刻な溺れの回避に

つなげています。昨年の離岸流に関する注意喚起は13,892人であったことから、2025年は離岸流が多く発生していたと考えられます。一方、飲酒への注意喚起の件数は年々減少してい

ます。「飲んだら、泳がない。」の呼びかけを継続していることも海岸での飲酒マナー向上につながっていると考えられます。

パトロールログ2025トピックス&集計

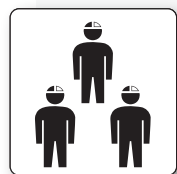
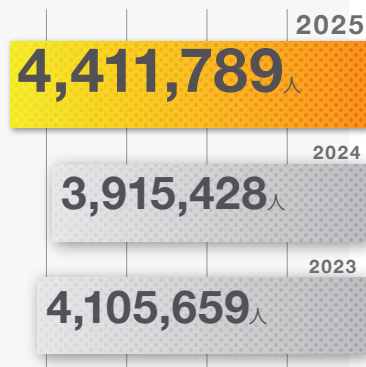
日本ライフセービング協会の加盟クラブが活動する全国の監視活動エリア 207 か所（海水浴場 203・湖水浴場 2・ プール 2）より、集計可能なデータを対象にまとめました。



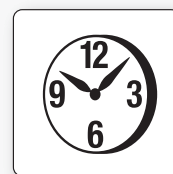
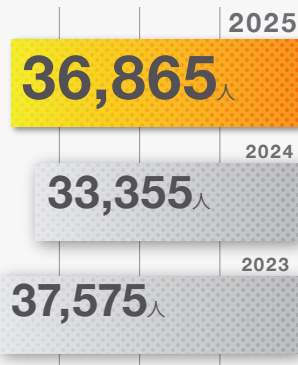
報告水浴場数



水浴場
利用者数



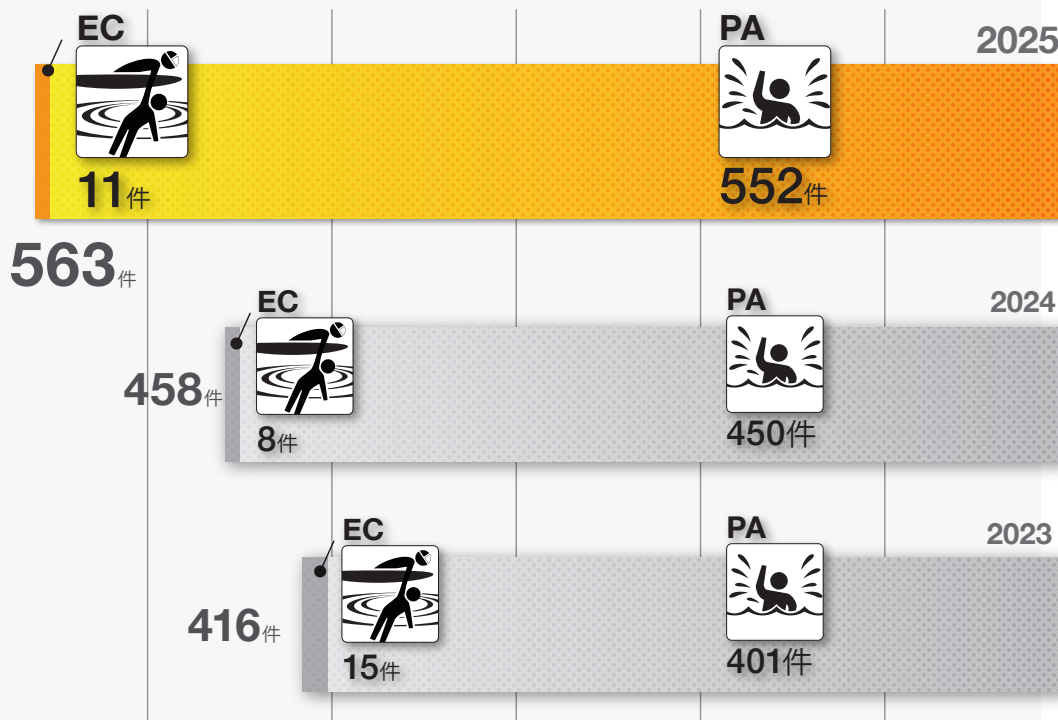
パトロールに携わった
ライフセーバー
総数



パトロール
延時間



レスキュー総数



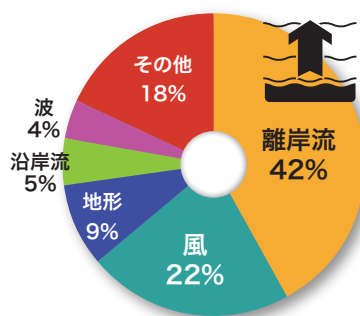
※ EC = Emergency Care … 意識のない溺者に対する救助アプローチ、PA = Preventive Action … 意識のある溺者に対する救助アプローチ
※ パトロール延時間 … 延べライフセーバー数 × 1 日のパトロール総時間

2015-2019 年の平均との比較

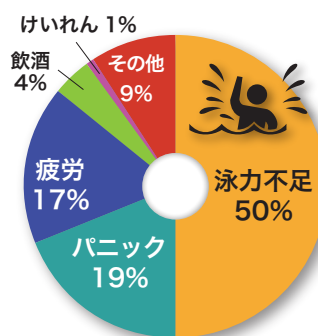
	2025	2024	2023	2015-2019 平均
報告水浴場数（か所）	207	215	215	199
水浴場利用者数（人）	4,411,789	3,915,428	4,105,659	9,862,220
ライフセーバー総数（人）	36,865	33,350	37,575	45,379
Preventive Action（件） （意識ありの溺者の救助）	552	450	401	2,318
Emergency Care（件） （意識なしの溺者の救助）	11	8	15	27
事故未然防止活動①（件） 離岸流に関する注意喚起	21,095	13,892	39,873	229,150※
事故未然防止活動②（件） 飲酒に関する注意喚起	10,062	14,176	21,575	84,617※
FA（応急手当）（件）	3,515	4,641	2,579	18,340
救急搬送（件）	136	183	137	139

※ 2018 年と 2019 年の平均値

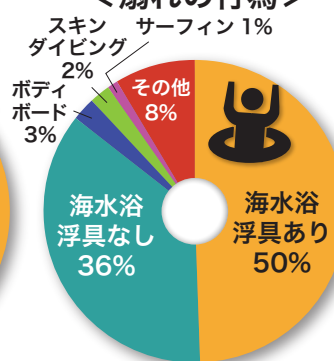
<溺れの自然要因>



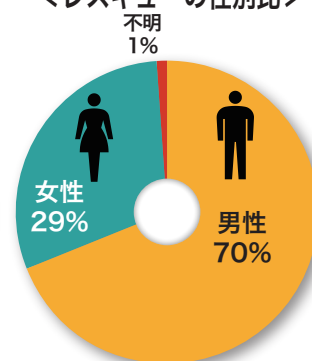
<溺れの個人要因>



<溺れの行為>



<レスキューの性別比>



要因	PA	EC
離岸流に流される	250	1
風に流される	133	0
陥没・急深にはまる	51	0
沿岸流に流される	29	1
波に巻かれる	22	1
その他	96	8

要因	PA	EC
泳力不足	326	1
パニック	121	3
疲労	109	0
飲酒	23	2
けいれん	6	0
その他	53	7

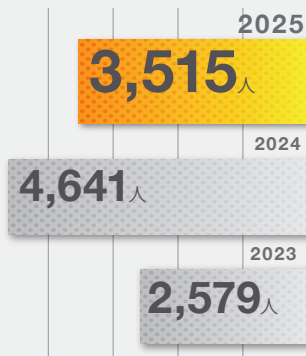
行為	PA	EC
海水浴・浮具あり	307	1
海水浴・浮具なし	217	6
スキンダイビング	11	2
ボディボード	15	1
サーフィン	7	0
その他	51	2

性別	PA	EC
男性	382	10
女性	164	1
不明	6	0

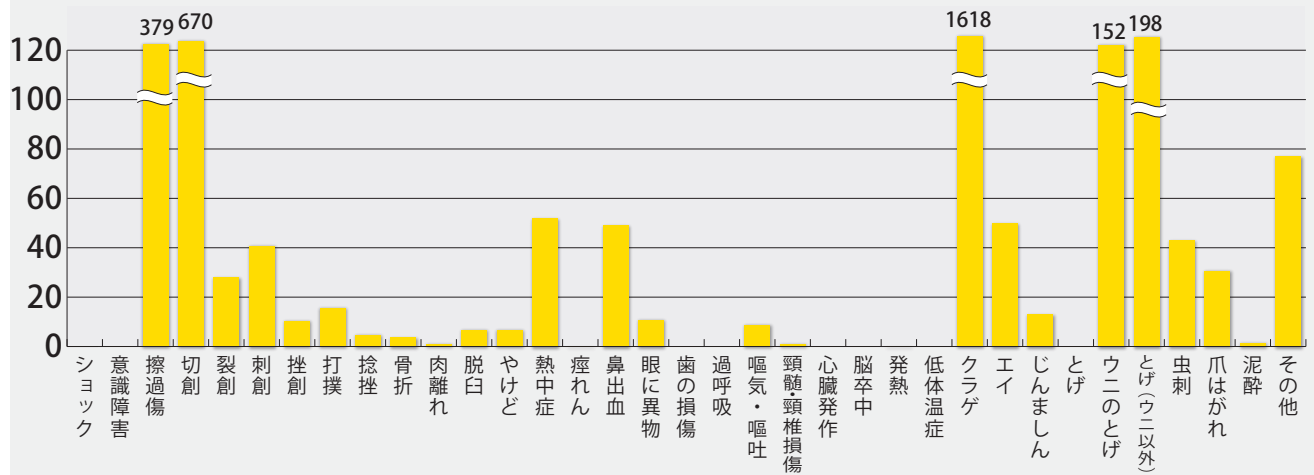
※EC = Emergency Care … 意識のない溺者に対する救助アプローチ、PA = Preventive Action … 意識のある溺者に対する救助アプローチ



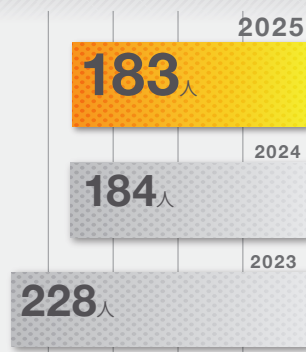
ファースト エイド総数



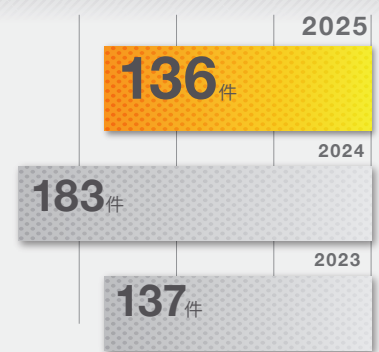
ショック	2	骨折	4	過呼吸	0	じんましん	14
意識障害	0	肉離れ	2	嘔気・嘔吐	11	とげ	5
擦過傷	379	脱臼	7	頸髄・頸椎損傷	2	ウニのとげ	152
切創	670	やけど	7	心臓発作	0	とげ（ウニ以外）	198
裂創	27	熱中症	53	脳卒中	0	虫刺	42
刺創	41	瘻れん	0	発熱	1	爪はがれ	32
挫創	10	鼻出血	47	低体温症	0	泥酔	3
打撲	16	眼に異物	11	クラゲ	1618	その他	75
捻挫	6	歯の損傷	0	エイ	49	不明	31



迷子総数



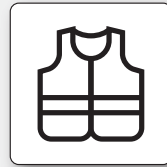
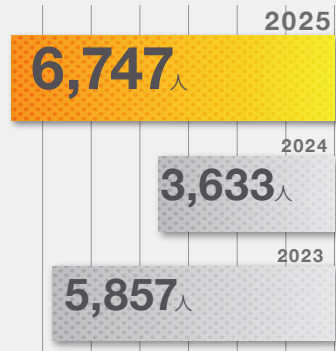
救急搬送 件数



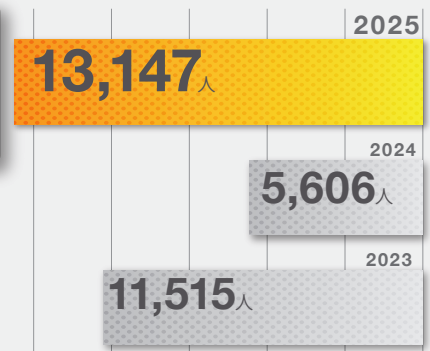
【BLS & Water Safety プログラム参加実績数】



BLS



Water
Safety



資格取得のための BLS 講習会、ウォーターセーフティ講習会受講者と、体験のための BLS サポーター、ウォーターセーフティサポーター参加者の総数です。
BLS … Basic Life Support (一次救命処置)



レスキューレポート

日本ライフセービング協会の加盟クラブが活動する全国の監視活動エリア 207 か所（海水浴場 203・湖水浴場 2・プール 2）よりレポートのあった事例。

救急搬送事例

No.	月	年齢	性別	状況	救助方法	意識	溺水	救急搬送	監視時間	遊泳エリア	発生または 覚知から接触	飲酒
1	7	6	男性	脱力・疲労感 熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	1分	なし
2	7	7	男性	クラゲに刺され、腹痛、息苦しさ	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	なし
3	7	11	女性	遊泳中にビニール片が口に入ってパニックになり溺水	フィン無しレスキューチューブ	なし	あり	あり	内	内	1分以内	なし
4	7	24	女性	体調不良の訴え 熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	なし
5	7	27	女性	体調不良の訴え 熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
6	7	49	男性	遊泳中に溺水し、その後気分不快	なし	あり	あり	あり	内	内	1分	不明
7	7	52	男性	砂浜で酩酊状態	なし	あり	なし	あり	内	内	2分	あり
8	7	55	男性	海水浴中に波に巻かれて左上肢の痛みと痺れ	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	不明
9	7	61	男性	右下腿挫創	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	不明
10	7	63	男性	ボディーボード中に波に巻かれ頭部を打ちつけ頭部の痛み、右手の痺れ	なし	あり	なし	あり	内	内	19分	不明
11	7	不明	男性	海中の浮き台から飛び込み海底の岩に前頭部を打ち挫創、左手の痺れ	レスキューボード	あり	なし	あり	内	内	2分	あり
12	8	2	男性	遊泳中に水を飲んでしまい溺水	なし	あり	あり	あり	内	内	不明	なし
13	8	5	女性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	なし
14	8	5	女性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	なし
15	8	7	男性	岩場で転倒し頭部負傷、前頭部挫創	なし	あり	なし	あり	内	内	5	なし
16	8	7	男性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	なし
17	8	12	男性	体調不良の訴え 熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	なし
18	8	14	男性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	なし
19	8	14	男性	波打ち際でエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	なし
20	8	15	男性	陸上でサッカーをしていて負傷、股関節の痛み、脱臼の疑い	なし	あり	なし	あり	内	外	1分以内	なし
21	8	15	男性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	なし

No.	月	年齢	性別	状況	救助方法	意識	溺水	救急搬送	監視時間	遊泳エリア	発生または覚知から接触	飲酒
22	8	21	女性	遊泳中に海洋生物（詳細不明）に刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	不明
23	8	22	男性	遊泳中にクラゲに刺されてパニック・過呼吸	なし	あり	なし	あり	内	内	1分	不明
24	8	30	女性	波打ち際でクラゲに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
25	8	42	男性	波に巻かれて地面に腰部を打ちつけられ、腰痛	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	あり
26	8	45	男性	ボディーサーフィン中に他の遊泳客と接触、右上肢の痺れ、両肩の痛み	なし	あり	なし	あり	内	内	14分	不明
27	8	50	男性	遊泳中に海洋生物（詳細不明）に刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	不明
28	8	50	男性	遊泳中に海洋生物（詳細不明）に刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	59分	不明
29	8	54	女性	海の家で立ちくらみ、熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	外	7分	不明
30	8	58	男性	駐車場の車内で体調不良、熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	27分	不明
31	8	62	男性	岩場で転倒し負傷	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	あり
32	8	76	女性	砂浜で椅子に座って寝ていたところ、椅子から落ちて意識障害	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	不明
33	8	81	男性	浅瀬を歩行中に釣り針が足に刺さり抜けない	なし	あり	なし	あり	内	内	2分	あり
34	8	10代	男性	泳いでいた（クロール）していたところ、右肩が脱臼	なし	あり	なし	あり	内	内	6分	なし
35	8	20代	男性	海の家で飲酒をしていて酩酊状態	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	あり
36	8	30代	男性	ビーチテニス中に気分不良、木陰で休んでいる最中に痙攣	なし	あり	なし	あり	内	不明	3分	不明
37	8	40代	男性	波打ち際でエイに刺され歩行不可	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	不明
38	8	不明	男性	波打ち際をエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
39	8	不明	男性	波打ち際をエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明

救急搬送事例【CPR 実施】

No.	月	年齢	性別	発生状況	溺水	海 / 陸	監視時間	遊泳エリア	目撃	発生または 覚知から 接触	接触時	発生または 覚知から CPR 開始	AED 使用	ショック	自己 心拍 再開	社会 復帰
1	7	75	男	遊泳中に溺水 ライフセーバーが浮い ているところを発見	あり	海	内	内	なし	1分以内	心肺停止	2分	あり	なし	なし	不明
2	8	23	女	遊泳中に溺水 ライフセーバーが浮い ているところを発見	あり	海	内	内	なし	1分以内	心肺停止	1分	あり	なし	あり	不明
3	8	66	男	ボディーボード中に波 に巻かれ溺水	あり	海	内	内	あり	3分	心肺停止	3分	あり	なし	なし	不明
4	8	56	男	遊泳エリア外で海で 作業中に溺水	あり	海	内	外	なし	5分	心肺停止	13分	あり	なし	なし	死亡
5	8	48	男	遊泳中に溺水 ライフセーバーが浮い ているところを発見	あり	海	内	内	なし	1分以内	心肺停止	2分	あり	なし	なし	なし
6	8	15	男	シュノーケリング中に溺水	あり	海	内	外	なし	15分	心肺停止	16分	あり	あり	なし	不明
7	8	12	女	遊泳中にリップカレン トに流され溺水	あり	海	内	外	あり	1分以内	心肺停止	4分	あり	なし	なし	死亡

CPR

2025 年度に報告された CPR 件数は 7 件、昨年の溺水に関わる CPR 症例が 6 件だったのでほぼ同じ発生件数でした。2025 年度では 12 歳から 75 歳まで、男性に多い傾向でした。発生はすべて監視時間内、遊泳エリア内 4、エリア外 3 でした。目撃ありは 2 例、発生または覚知から比較的早期に接触、および CPR が開始されています。No. 6 はシュノーケル中に見失ってから見つかるまで捜索に時間を要したため発生から接触までに 15 分を要したものです。また No.4 はエリア外が現場で、覚知後、現場への移動、さらに水底に沈んだ溺水者を救助するのに時間を要したため、CPR 開始までに 13 分を要しました。発生状況に関してでは No.3 についてはボディーボード中に波にまかれて溺水というもので、頸髄損傷が疑われます。波にまかれて頸髄損傷となるのは、毎年必ず発生するもので、いかに早期発見し、溺水から安全に陸地へ移動させるかの救助が重要です。No.7 は数名のグループで入水し、リップカレントで流され溺水したというもので、多数溺者発

生案件です。複数名が同時に流される、というパターンも度々報告されており、こういった場合も起こり得るのだということを私たちは認識しておかなくてはなりません。No.3、No.7 とともに目撃ありで、どちらも溺水が原因です。発生から CPR 開始まで比較的短時間でしたが心肺停止に陥ってしまうことを顧みると、さらに短時間で陸地での CPR を行う必要があるものと考えられます。

First Aid

39 例の報告があがりました。2 歳から 81 歳、男性 30 例、女性 9 例でした。傷病別にみると、最も多いのは、海洋生物による刺傷 15 例で、クラゲ 8 例、エイ 4 例でした。注意すべきは No.2 の 7 歳男児で、クラゲに刺された後、呼吸困難や腹痛を訴えており、これはアナフィラキシーにまで増悪していると考えられます。クラゲの First Aid については習熟しておくようにお願いします。次いで多いものが外傷 12 件です。このなかにはさまざまな外傷が含まれますが、特に No.10、11 は海浜では大事

には至らなかったものの頸髄損傷の疑いがあります。特に波打ち際で波にもまれて海底に頭部をぶつけて頸髄損傷をきたすというパターンは毎年必発といってよいので、これも対応について習熟しておくようにしてください。熱中症疑いは 7 件。毎年危険な暑さが続いています。海水浴に来られる方だけでなく、ライフセーバー自身も熱中症の予防に努めてください。酩酊は 2 件。しかしこれは冰山の一角で、やはり飲んだら泳がないというキャンペーンは声を大にして訴え続けていく必要があります。

CPR … Cardiopulmonary
Resuscitation (心肺蘇生法)

救急蘇生委員会委員長・メディカルダイレクター
中川 儀英



加盟クラブ

Total

ライフセーバー数
lifesavers

5,509

男性 3,881
女性 1,628

加盟クラブ数
clubs

177

内訳：第1種 49
第2種 72
第3種 38
第4種 14
第5種 4
第6種 0

水浴場数
beaches ※

207

beach 203
lake 2
pool 2

※認定ライフセーバーが活動する
海水浴場・湖水浴場・プール

第1種・第2種クラブ /

- [北海道ライフセービング協会加盟] 3
小樽ライフセービングクラブ
札幌ライフセービングクラブ
神威ライフセービングクラブ
- [岩手県ライフセービング協会加盟] 3
釜石ライフセービングクラブ
つがるライフセービングクラブ
盛岡ライフセービングクラブ
- [山形県ライフセービング協会加盟] 1
山形ライフセービングクラブ
- [宮城県ライフセービング協会加盟] 1
気仙沼ライフガード
- [福島県ライフセービング協会加盟] 1
いわきサーフライフセービングクラブ

北信越

新潟・長野・富山・福井・石川

270 lifesavers **10** clubs **11** beaches

北海道・東北

北海道・青森・岩手・秋田・山形・宮城・福島

212 lifesavers **13** clubs **14** beaches

近畿

京都・大阪・滋賀・奈良・和歌山・兵庫

446 lifesavers **9** clubs **13** beaches

北関東

茨城・千葉・栃木・埼玉・群馬

909 lifesavers **20** clubs **54** beaches

中国

島根・岡山・広島・山口・鳥取

350 lifesavers **13** clubs **15** beaches

南関東

東京・神奈川・山梨

1,867 lifesavers **68** clubs **42** beaches

四国

徳島・香川・愛媛・高知

107 lifesavers **7** clubs **7** beaches

東海

静岡・愛知・三重・岐阜

703 lifesavers **22** clubs **36** beaches

九州・沖縄

福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

645 lifesavers **15** clubs **13** beaches

[新潟県ライフセービング協会加盟] 7
柏崎ライフセービングクラブ
佐渡ライフセービングクラブ
親不知ライフセービングクラブ
新潟青山ライフセービングクラブ
滑川ライフセービングクラブ
富山ライフセービングクラブ
八重津浜ライフセービングクラブ
[福井県ライフセービング協会加盟] 1
若狭和田ライフセービングクラブ
[茨城県ライフセービング協会加盟] 5
大洗サーフライフセービングクラブ
大竹サーフライフセービングクラブ
NPO 法人鹿嶋ライフガードチーム
波崎サーフライフセービングクラブ
常陸サーフライフセービングクラブ
[千葉県ライフセービング協会加盟] 9
御宿ライフセービングクラブ
勝浦ライフセービングクラブ
館山サーフライフセービングクラブ
銚子ライフセービングクラブ
NPO 法人九十九里ライフセービングクラブ
和田浦ライフセービングクラブ
岩井ライフセービングクラブ
鴨川ライフセービングクラブ
白浜ライフセービングクラブ
[東京都ライフセービング協会加盟] 17
KITAJIMAQUATICS
東京消防庁ライフセービングクラブ
新島ライフセービングクラブ
有限会社ノバック
アート・オブ・スペース
S-SENSE CLUB
伊豆大島ライフセービングクラブ
お台場ライフセービングクラブ
慶應義塾幼稚舎ライフセービングクラブ
神津島ライフセービングクラブ
三多摩ライフセービングクラブ
式根島ライフセービングクラブ
世田谷スイミングアカデミー
八丈島ライフガード
ピチュリンライフセービングクラブ
ふるさと東京を考える実行委員会ライフセービングクラブ
三宅島サーフライフセービングクラブ
[神奈川県ライフセービング協会加盟] 17
NPO 法人逗子サーフライフセービングクラブ
NPO 法人葉山ライフセービングクラブ
鎌倉ライフガード
湘南ひらつかライフセービングクラブ
NPO 法人湘南ウォーターセーフティ協会
NPO 法人西浜サーフライフセービングクラブ
NPO 法人湯河原ライフセービングクラブ
三浦サーフライフセービングクラブ
横浜海の公園ライフセービングクラブ
大磯ライフセービングクラブ
SURF90鎌倉ライフセービングクラブ
サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
湘南 GoldenAge アカデミー
茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
辻堂ライフセービングクラブ
NPO 法人サーフ 90 藤沢ライフセービングクラブ
由比ガ浜 サーフライフセービングクラブ
[静岡県ライフセービング協会加盟] 14
熱川ライフセービングクラブ
熱海ライフセービングクラブ
NPO 法人下田ライフセービングクラブ
牧之原ライフセービングクラブ連合
今井浜サーフライフセービングクラブ

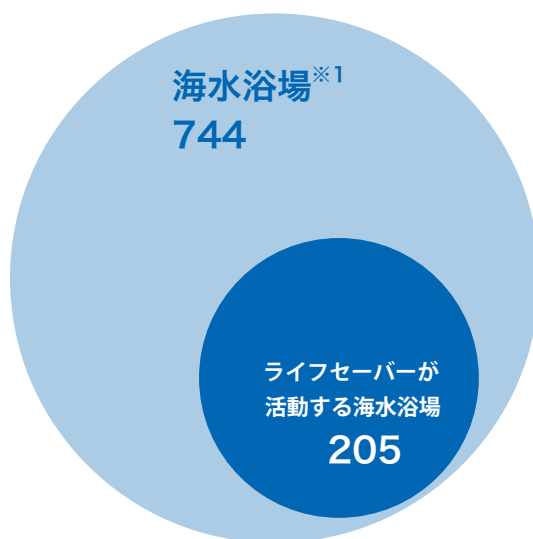
土肥ライフセービングクラブ
NPO 法人南伊豆ライフセービングクラブ
西伊豆ライフセービングクラブ
沼津ライフセービングクラブ
NPO 法人浜松ライフセービングクラブ
松崎ライフセービングクラブ
御浜沼津ライフセービングクラブ連合
御浜ライフセービングクラブ
用宗ライフセービングクラブ
[愛知県ライフセービング協会加盟] 4
愛知ライフセービングクラブ
伊勢志摩ライフセービングクラブ
鬼崎サーフライフセービングクラブ
尾鷲ライフセービングクラブ
[大阪府ライフセービング協会加盟] 3
NPO 法人大阪ライフセービングクラブ
せんなん里海公園・淡輪ライフセービングクラブ
二色の浜ライフセービングクラブ
[京都府ライフセービング協会加盟] 2
天橋立ライフセービングクラブ
近江舞子ライフセービングクラブ
[兵庫県ライフセービング協会加盟] 2
淡路島ライフセービングクラブ
神戸ライフセービングクラブ
[鳥取県ライフセービング協会加盟] 2
NPO 法人皆生ライフセービングクラブ
岩美ライフセービングクラブ
[島根県ライフセービング協会加盟] 2
キララライフセービングクラブ
NPO 法人浜田ライフセービングクラブ
[岡山県ライフセービング協会加盟] 1
岡山ライフセービングクラブ赤十字奉仕団
[広島県ライフセービング協会加盟] 3
安芸ライフセービングクラブ
広島サーフライフセービングクラブ
福山ライフセービングクラブ
[山口県ライフセービング協会加盟] 4
NPO 法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブ
萩サーフ・ライフセービング・クラブ
光ライフセービングクラブ
山口ライフセービングクラブ
[香川県ライフセービング協会加盟] 4
香川ライフセービングクラブ
女木島ライフセービングクラブ
黒潮うきぶちサーフライフセービングクラブ
高知ライフセービングクラブ
[愛媛県ライフセービング協会加盟] 1
双海ライフセービングクラブ
[徳島県ライフセービング協会加盟] 2
阿波ライフセービングクラブ
日亜ライフセービングクラブ
[福岡県ライフセービング協会加盟] 5
NPO 法人新宮ライフセービングクラブ
博多サーフライフセービングクラブ
福岡ライフセービングクラブ
福岡サンセットショアライフセービングクラブ
宗像ライフセービングクラブ
[大分県ライフセービング協会加盟] 2
大分市ライフセービングクラブ
北熊ライフセービングクラブ
[長崎県ライフセービング協会加盟] 2
99 長崎ライフセービングクラブ
長崎県北ライフセービングクラブ
[鹿児島県ライフセービング協会加盟] 2
かごしま磯ライフセービングクラブ
屋久島ライフセービングクラブ

第3種・第4種・第5種・第6種クラブ / 56
札幌国際大学水泳部 ライフセービングチーム
北海道医療大学マリンサークル
吉田学園ライフセービング部
仙台大学ライフセービングクラブ
新潟産業大学ライフセービング部
福井県立大学ライフセービング部
茨城大学サーフライフセービングクラブ
流通経済大学ライフセービングクラブ
筑波大学ライフセービング部
国際武道大学ライフセービングクラブ
順天堂大学ライフセービングクラブ
拓殖大学ライフセービング部
杏林大学ライフセービング部
国士舘大学ライフセービング部
実践女子大学ライフセービング部
上智大学サーフライフセービングクラブ
成城大学ライフセービングクラブ
成蹊大学体育会ライフセービング部
青山学院大学ライフセービングクラブ
専修大学サーフライフセービング愛好会
早稲田大学ライフセービングクラブ
中央大学ライフセービングクラブ
帝京大学ライフセービングクラブ
東京女子体育大学ライフセービング部
東洋大学サーフライフセービングクラブ
日本女子体育大学ライフセービングクラブ
日本体育大学ライフセービング部
日本大学サーフライフセービングクラブ ZIPANG
法政大学サーフライフセービングクラブ
明治大学サーフライフセービングクラブ
玉川大学ライフセービングクラブ
国際基督教大学サーフライフセービングクラブ
帝京平成大学ライフセービングサークル
武蔵野大学ライフセービングクラブ
立教大学ライフセービングクラブ
國學院大学ライフセービングクラブ
慶應義塾大学ライフセービングクラブ
神奈川大学ライフセービングクラブ
東海大学湘南体育会ライフセービングクラブ
文教大学ライフセービングクラブ
桐蔭横浜大学ライフセービングクラブ
東海大学静岡キャンパスライフセービングクラブ LOCO
名古屋工業大学ライフセービングクラブ
中京大学ライフセービングクラブ
日本福祉大学ライフセービングクラブ
大阪体育大学ライフセービングクラブ
明治国際医療大学ライフセービングクラブ
鳥取大学発ライフセービングクラブ
九州看護福祉大学ライフセービング部
九州産業大学ライフセービングクラブ
福岡大学ライフセービングクラブ
琉球大学ライフセービング部
十文字高校ライフセービングクラブ
昭和第一学園高等学校ライフセービング部
成城学園高等学校ライフセービングクラブ
日本体育大学在原高等学校ライフセービングクラブ

ライフセーバーが活動する海水浴場等

全国に 744 か所 ※¹ ある海水浴場のうち、
JLA 資格を有する認定ライフセーバーは
205 か所 (28%) で活動しています。

認定ライフセーバーとは、JLA アカデミーが発行するベーシックサーフライフセーバー、プールのライフガード以上の資格保有者を指します。



※¹ 環境省「水浴場（開設前）の水質調査結果」（2025 年）

※青字は JLA 認定海水浴場です

福岡県 宗像市 北斗の水くみ海浜公園 新宮町 新宮海岸 福津市 福岡海水浴場 福岡市 シーサイドももち海浜公園 志賀島海水浴場	徳島県 徳島市 小松海水浴場 阿南市 北の脇海水浴場 松茂町 月見ヶ丘海浜浴場	鳥取県 米子市 皆生温泉海水浴場 岩美町 浦富海水浴場 鳥取市 賀露みなと海水浴場	愛知県 南知多町 内海海水浴場（千鳥ヶ浜） 知多市 新舞子ブルーサンビーチ 田原市 白谷海水浴場 仁崎海水浴場 常滑市 りんくうビーチ
大分県 大分市 田ノ浦海水浴場	高知県 香南市 ヤシィ・パーク	島根県 出雲市 岐久海岸海水浴場 浜田市 姉ガ浜海水浴場 江津市 波子海水浴場	滋賀県 大津市 近江舞子中浜水泳場
長崎県 平戸市 千里ヶ浜海水浴場	香川県 さぬき市 津田の松原海水浴場 高松市 女木島海水浴場	岡山県 玉野市 渋川海水浴場	京都府 宮津市 天橋立海水浴場 天橋立府中海水浴場 丹後由良海水浴場
鹿児島県 屋久島町 一湊海水浴場 春田浜海水浴場 栗生浜海水浴場	愛媛県 伊予市 双海シーサイド公園	広島県 呉市 県民の浜 狩留賀海浜公園海水浴場 福山市 クレセントビーチ海浜公園	大阪府 泉南市 淡輪海水浴場 樽井サザンビーチ 貝塚市 二色の浜海水浴場
沖縄県 座間味村 阿真ビーチ海水浴場 古座間味ビーチ海水浴場 北浜ビーチ海水浴場		山口県 下関市 ホテル西長門リゾートビーチ 萩市 菊ヶ浜海水浴場 長門市 二位ノ浜海水浴場 周南市 長田海浜公園 光市 虹ヶ浜海水浴場	和歌山県 和歌山市 片男波海水浴場 磯ノ浦海水浴場 白良浜海水浴場
			兵庫県 神戸市 須磨海水浴場 アジュール舞子海水浴場 洲本市 炬口漁港公演

静岡県

東伊豆町	熱川 you 湯ビーチ海水浴場
河津町	今井浜海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場 / プリンスホテル下 白浜中央海水浴場 白浜大浜海水浴場 外浦海水浴場 鍋田浜海水浴場 多々戸浜海水浴場 入田浜海水浴場 舞磯浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場
南伊豆町	弓ヶ浜海水浴場 ヒリゾ浜海水浴場
松崎町	松崎海水浴場 石部海水浴場 雲見海水浴場 岩地海水浴場
西伊豆町	浮島海水浴場 田子瀬浜海水浴場 乗浜海水浴場 深田クリスタルビーチ 黄金崎海水浴場
伊豆市	土肥海水浴場 小土肥海水浴場
沼津市	御浜海水浴場 井田海水浴場
静岡市	用宗海水浴場
牧之原市	静波海水浴場 さがらサンビーチ海水浴場
湖西市	新居井天海水浴場
浜松市	弁天島海浜公園

東京都

八王子市	八王子室内プール
福生市	福生市営プール
新島村	黒根海水浴場 前浜第二海水浴場 前浜第四海水浴場 羽伏浦海水浴場 間々下海水浴場 渡浮根海水浴場 若郷前浜海水浴場 泊港海水浴場 大浦海水浴場 中の浦海水浴場 石白川海水浴場
神津島村	前浜海水浴場 多幸湾海水浴場 赤崎海水浴場 沢尻海水浴場
大島町	トウシキ海水浴場 日の出浜海水浴場
三宅村	錆ヶ浜海水浴場 三池浜海水浴場 大船戸海水浴場 長太郎池海水浴場 大久保浜海水浴場
八丈町	底土海水浴場

千葉県

銚子市	銚子マリナ海水浴場 長崎海水浴場
旭市	矢指ヶ浦海水浴場
山武市	殿下海水浴場 中下海水浴場 小松海水浴場 白幡・井之内海水浴場 本須賀海水浴場
九十九里町	片貝海水浴場 不動堂海水浴場 真亀海水浴場
御宿町	御宿岩和田海水浴場 御宿中央海水浴場 御宿浜海水浴場
勝浦市	勝浦中央海水浴場 鵜原海水浴場 守谷海水浴場 興津海水浴場
鴨川市	前原海水浴場 太海海水浴場 江見海水浴場 内浦海水浴場 城崎海水浴場
南房総市	和田浦海水浴場 根本海水浴場 塩浦海水浴場 豊岡海水浴場 多々良北浜海水浴場 岩井海岸中央海水浴場 岩井海岸高崎海水浴場 岩井海岸第一海水浴場 瀬戸浜海水浴場 南千倉海水浴場 北条海水浴場 新井海水浴場 沖ノ島海水浴場 波左間海水浴場 勝山海水浴場 大六海水浴場 鯉ヶ浦海水浴場 保田中央海水浴場 元名海水浴場 富津海水浴場 上総湊海水浴場 新舞子海水浴場 大貫海水浴場
館山市	
鋸南町	
富津市	

〔茨城県〕

大洗町	大洗サンビーチ
鉾田市	大竹海岸
鹿嶋市	下津海水浴場 平井海水浴場
神栖市	波崎海水浴場 日川浜海水浴場
高萩市	高萩海水浴場
北茨城市	磯原ニツ島海水浴場

神奈川県

横浜市	海の公園海水浴場
三浦市	三浦海岸海水浴場 一色海水浴場
葉山町	森戸海水浴場 大浜・長者ヶ崎海水浴場
逗子市	逗子海水浴場
鎌倉市	由比ガ浜海水浴場 材木座海水浴場 腰越海水浴場 七里ヶ浜海岸 片瀬東浜海水浴場 片瀬西浜・鵠沼海水浴場 鵠沼サーフエリア 辻堂海水浴場
茅ヶ崎市	サザンビーチ茅ヶ崎海水浴場 茅ヶ崎東海岸ヘッドランド
平塚市	湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場
大磯町	大磯海水浴場
湯河原町	吉浜海水浴場

北海道

苫前町	とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ
羽幌町	はぼろサンセットビーチ
小樽市	おたるドリームビーチ
石狩市	石狩浜海水浴場 厚田海浜プール

青森県

つがる市	マグアビーチ海水浴場 出来島海水浴場
------	-----------------------

岩手県

釜石市	根浜海岸海水浴場
大槌町	吉里吉里海岸海水浴場

宮城県

気仙沼市	小田の浜海水浴場
------	----------

山形県

遊佐町	西浜海水浴場
-----	--------

福島県

いわき市	勿来海水浴場 波立海水浴場
会津若松市	崎川浜湖水浴場

新潟県

柏崎市	石地海水浴場 鯨波海水浴場 東の輪海水浴場 番神海水浴場
新潟市	小針浜海水浴場
佐渡市	佐和田海水浴場
糸魚川市	親不知海水浴場 糸魚川海水浴場

富山県

射水市	海老江海浜公園海水浴場
富山市	八重津浜海水浴場

福井県

高浜町	若狭和田海水浴場
-----	----------

監視救助事業

監視救助事業

監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に利用者やスポーツイベント等の参加者が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県内の自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各加盟クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについて活動支援を行った。

	海水浴場名	地区	期間
1	新島地区・黒根海水浴場	東京都新島村	8/1～8/31
2	新島地区・第二前浜海水浴場		
3	新島地区・第四前浜海水浴場		
4	新島地区・間々下浦海水浴場		
5	新島地区・若郷前浜海水浴場		
6	新島地区・羽伏浦海水浴場		
7	式根島地区・泊海水浴場		
8	式根島地区・大浦海水浴場		
9	式根島地区・中の浦海水浴場		
10	式根島地区・石白川海水浴場		
11	三宅島地区・錆ヶ浜海水浴場	東京都三宅村	7/22～8/17
12	三宅島地区・三池浜海水浴場		
13	三宅島地区・大船戸海水浴場		
14	三宅島地区・大久保浜海水浴場		
15	三宅島地区・長太郎池海水浴場		
16	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/19～8/24
17	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/25～8/24
18	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/19～8/24
19	小土肥海水浴場		
20	乗浜海水浴場		
21	浮島海水浴場	静岡県西伊豆町	7/19～8/24
22	田子瀬浜海水浴場		
23	黄金崎海水浴場		
24	深田海水浴場		
25	松崎海水浴場	静岡県松崎町	7/21～8/24
26	岩地海水浴場		
27	石部海水浴場		
28	雲見海水浴場		
29	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	5/3～9/16

スポーツイベント安全管理

スポーツイベント（オープンウォータースイミング※やトライアスロン、水泳等）の監視とその救助を行った。

※「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ遠泳とは異なる。「OWS」と略す。

主催 / 事業内容（イベント名）	開催日	会 場
一般社団法人千葉県水泳連盟 日本マスターズ水泳短水路大会 2025	4/19 ~ 4/20 (2日間)	千葉国際総合水泳場
一般社団法人日本アウトリガーカヌー協会 JOCACUP 第4回全日本アウトリガーカヌー選手権	5/17 ~ 5/18 (2日間)	逗子海岸
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 第26回 東京都障害者スポーツ大会水泳競技	5/17 ~ 5/18 (2日間)	東京アクアティクスセンター
公益財団法人日本ローイング協会 第103回全日本ローイング選手権大会	5/22 ~ 5/25 (4日間)	海の森水上競技場
一般社団法人千葉県トライアスロン連合 第16回館山わかしおトライアスロン大会	5/24 ~ 5/25 (2日間)	沖ノ島周辺と海上自衛隊 館山航空基地内特設会場
公益財団法人日本水泳連盟 OWS オーシャンズカップ館山 2025	6/14 ~ 6/15 (2日間)	館山市北条海岸
2025 五島長崎国際トライアスロン大会実行委員会 2025 五島長崎国際トライアスロン大会	6/15 (1日間)	長崎県五島列島福江島
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第28回日本知的障害者選手権水泳競技大会	6/29 (1日間)	横浜国際プール
公益財団法人東京都水泳協会 東京 OWS 大島 2025	7/5 ~ 7/6 (2日間)	大島町 OWS スイムエリア
的形実行委員会 的形 OWS 2025	7/5 ~ 7/6 (2日間)	兵庫県姫路市の形
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 ジャンボウカップマスターズスイムミート 2025	7/19 ~ 7/20 (2日間)	神戸市立ポートアイランド スポーツセンター
館山 OWS オーシャンズカップ 2025 実行委員会 館山 OWS オーシャンズカップ 2025	7/19 ~ 7/20 (2日間)	館山市北条海岸
一般社団法人 岐阜県水泳連盟 第8回岐阜県社会人選手権水泳競技大会	8/10 (1日間)	長良川スイミングプラザ
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ長浜市実行委員会 わた SHIGA 輝く国スポ・全障スポ OWS プレ大会	8/16 ~ 8/17 (2日間)	滋賀県長浜市南浜町地先 特設会場
あおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会 青森あさむし温泉 OWS 大会 2025(国スポプレ大会)	8/29 ~ 8/31 (3日間)	サンセットビーチあさむし OWS 特設会場
わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ長浜市実行委員会 わた SHIGA 輝く国スポ・全障スポ OWS 本大会	9/9 ~ 9/10 (2日間)	滋賀県長浜市南浜町地先 特設会場
あおもり国スポ・障スポ青森市実行委員会 第16回 日本スプリントトライアスロン選手権	9/13 ~ 9/14 (2日間)	青森市特設トライアスロン会場
公益財団法人日本水泳連盟 第101回日本選手権水泳競技大会 OWS 競技	9/26 ~ 9/28 (3日間)	館山市北条海岸
一般社団法人泉南スポーツコミッション協会 泉南 OWS 大会 2025	10/3 ~ 10/5 (3日間)	タリイサザンビーチ
公益社団法人トライアスロンジャパン キッズトライアスロンプロジェクト	10/5 (1日間)	海の森水上競技場
千葉シティトライアスロン実行委員会 千葉シティトライアスロン大会 2025	10/11 ~ 10/13 (3日間)	千葉市稲毛海浜公園
公益財団法人日本水泳連盟 第101回日本学生選手権 OWS 競技大会	10/11 ~ 10/13 (3日間)	館山市北条海岸
日本のひなた宮崎国スポ・障スポ延岡市実行委員会 OWS すみえカップ 2025 大会(宮崎国スポプレ大会)	10/18 ~ 10/19 (2日間)	須美江海海水浴場特設会場 (延岡市)
一般社団法人千葉県水泳連盟 第26回千葉マスターズ水泳選手権大会	10/18 ~ 10/19 (2日間)	千葉国際総合水泳場
須崎 OWS2025 大会実行委員会 須崎 OWS 大会 2025	10/18 ~ 10/19 (2日間)	須崎市立スポーツセンター シーパーク大島
公益社団法人トライアスロンジャパン トライアスロン日本選手権大会	10/26 (1日間)	東京お台場
公益社団法人トライアスロンジャパン ワールドトライアスロンカップ 2025	11/7 ~ 11/9 (3日間)	みやざき臨海公園
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 ジャパンマスターズスプリント 2025 WEST	11/15 ~ 11/16 (2日間)	インフロンニア草津 アクアティックセンター
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 ジャパンマスターズスプリント 2025 EAST	11/29 ~ 11/30 (2日間)	千葉国際総合水泳場
新春マスターズスイムミート 2026 実行委員会 新春マスターズスイムミート 2026	2026/1/24 ~ 1/25 (2日間)	千葉国際総合水泳場

水辺の溺水事故防止に向けた
調査研究

ライフセービングレポート（全国パトロール統計：e-log）の集計および、レスキューレポート、傷病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2025 年度においては報告水浴場計 207 か所、携わったライフセーバー総数は 36,865 人、パトロール延時間は 278,286 時間であった。

*詳細は P4~6 のとおり

海のそなえプロジェクト
＜日本財団助成事業＞

4団体のコンソーシアムにてプロジェクトに取り組んだ。本協会では「全国における水難事故の実態調査分析及びナショナルデータ構築」と「ウォーターセーフティ・ナショナルカリキュラムの開発」に取り組んだ。

＜4団体＞

- ・公益財団法人日本財団
- ・一般財団法人うみらい環境財団
- ・公益社団法人日本水難救済会
- ・公益財団法人日本ライフセービング協会

＜プロジェクト＞

- ・水難事故に関する調査
- ・水難事故防止教育プログラムの開発
- ・フローティングアイテム普及推進
- ・海のそなえ普及コンテンツ開発
- ・情報発信（シンポジウム等の開催）

監視救助活動の推進に向けた
器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

■監視救助用ユニフォーム等の配備支援

対象：本協会認定資格所有者
内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	257
パトロールユニフォーム半袖	450
ビーチパトロールシャツ半袖	55
プールライフセーバー半袖	33
サーフパンツ男子	590
サーフパンツ女子	212
男子水着ボクサー型 1	0
男子水着ボクサー型 2	110
男子水着ボクサー型 3	107
男子水着ブーメラン型 1	0
男子水着ブーメラン型 2	42
男子水着ブーメラン型 3	44
女子水着トップス型 1	0
女子水着トップス型 2	57
女子水着トップス型 3	49
女子水着ボクサー型 1	0
女子水着ボクサー型 2	21
女子水着ボクサー型 3	22
女子水着ブーメラン型 1	0
女子水着ブーメラン型 2	44
女子水着ブーメラン型 3	28
女子水着ワンピース型 3	6
ラッシュガード	167
サーフハット	131
つば付きキャップ	350
パトロールキャップ	344

■監視救助用器材等の配備支援

＜日本財団助成事業＞

対象：都道府県協会及び加盟クラブ
内容：レスキューボード / チューブ / AED / 旗セット、IOT 等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	42 本
レスキューチューブ	140 本
AED	10 機
津波フラッグ・エリアフラッグセット	6 旗
高度化事業※ IOT 監視救助システム（沖縄県宮古島市渡口の浜）	1 セット

※次項参照のこと

■監視救助及び巡視等に対する車両配備支援

対象：都道府県協会
内容：主に海水浴場開設期間に車両「ライフセーバーカー」の貸出し
協賛：株式会社 SUBARU

年	都道府県協会数	車両台数
2025 年	29 都道府県 JLA 本部	39 台
2024 年	30 都道府県 JLA 本部	36 台
2024 年	29 道府県 JLA 本部	32 台
2024 年	26 道府県 JLA 本部	29 台
2024 年	21 道府県	21 台
2020 年	3 県	12 台

AI と IoT を活用した海辺のみまもりシステムの開発と運用

2019 年に開発し、2025 年までに全国 6ヶ所（千葉県夷隅郡御宿町中央海岸、福井県大飯郡高浜町若狭和田海岸、神奈川県鎌倉市由比ガ浜海岸、神奈川県鎌倉市中央・材木座海岸、静岡県下田市吉佐美大浜海岸、沖縄県国頭郡恩納村アポガマ）で運用。

このシステムは、AI が離岸流発生と離岸流エリアへの利用者の立ち入りをリアルタイムで自動検知し、離岸流発生時には、利用者のスマートフォンアプリにアラートを通知、また、ライフセーバーのスマートウォッチにも通知、離岸流エリアへの利用者の立入りがあった際にはライフセーバーのスマートウォッチに救助要請を発報。

また、津波注意報、警報発令時には、海岸利用者数を自動カウントし管轄行政の登録メールアドレスに海岸画像とともに通知、あらかじめ設定した間隔にて自動更新（通知）される。これにより、有事に海岸にどの程度の避難者がいて、時間経過とともに避難が進んでいるかを確認可能。さらに、ヘルプシグナルの自動検知も試験運用中。

2023 年には離岸流エリアに利用者が立ち入った際にドローンがその地点まで自動飛行し注意喚起のアナウンスをして自動で戻ってくるシステムの試験運用を実施し 2024 年には若狭和田海水浴場にて実装した。

Water Safety eye (AR) の開発

前述のシステムと連動する AR（拡張現実）技術を活用したスマートフォン Web アプリを 2025 年に開発し、由比ガ浜・中央材木座海岸で運用。また、同 Web アプリはシステムが稼働していない海岸でも運用可能であり、沖縄県の自然海岸で試験運用を開始。

ウォーターセーフティアプリ (WS) の開発

前述のシステムと連動するスマートフォンアプリを 2020 年に開発し、全国のライフセーバーが活動する海水浴場情報とともに公開。

e-log の導入

ライフセーバーの活動記録の電子化を行い、2022 年度より本運用。日々のデータが一元管理されている。

ドローンパトロール

2021 年、2022 年に一部の地域で試験的に運用（神奈川県協定）。2023-2025 年では本運用として、神奈川県内は葉山、由比ガ浜・中央材木座、神奈川県湘南広域にて、その他、宮城県気仙沼市小田の浜、福井県大飯郡高浜町若狭和田、東京都三宅村三宅島、沖縄県本島の 7ヶ所でドローンパトロールを実施した。

以下 4 地域には 4機配備を配備した。

配備団体	使用回数	合計飛行時間
気仙沼ライフガード	7 回	6 時間 25 分
葉山ライフセービングクラブ	9 回	6 時間 30 分
鎌倉ライフガード	29 回	17 時間 20 分
沖縄県ライフセービング協会	9 回	6 時間 10 分

JLA 認定海水浴場認定事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で 41 か所となっている。

▽新規 5 か所

1. 大久保浜海水浴場（東京都三宅村）
2. 前浜第四海水浴場（東京都新島村）
3. 中の浦海水浴場（東京都新島村）
4. 土肥海水浴場（静岡県伊豆市）
5. 小土肥海水浴場（静岡県伊豆市）

▽更新 8 か所 更新 3 年

1. 小田の浜海水浴場（宮城県気仙沼市）
2. 御宿中央海水浴場（千葉県御宿町）
3. 黒根海水浴場（東京都新島村）
4. 泊港海水浴場（東京都新島村）
5. 湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場（神奈川県平塚市）
6. 吉浜海水浴場（神奈川県湯河原町）
7. 静波海水浴場（静岡県牧之原市）
8. 相良サンビーチ海水浴場（静岡県牧之原市）

▽リスク評価 1 か所

1. いなげの浜海水浴場（千葉県千葉市稲毛区）

JLA 認定海水浴場

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で41か所となっている。

■新規認証5か所

1. 大久保浜海水浴場（東京都三宅村）
2. 前浜第四海水浴場（東京都新島村）
3. 中の浦海水浴場（東京都新島村）
4. 土肥海水浴場（静岡県伊豆市）
5. 小土肥海水浴場（静岡県伊豆市）

■更新認証8か所 ※更新3年

1. 小田の浜海水浴場（宮城県気仙沼市）
2. 御宿中央海水浴場（千葉県御宿町）
3. 黒根海水浴場（東京都新島村）
4. 泊港海水浴場（東京都新島村）
5. 湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場（神奈川県平塚市）
6. 吉浜海水浴場（神奈川県湯河原町）
7. 静波海水浴場（静岡県牧之原市）
8. 相良サンビーチ海水浴場（静岡県牧之原市）

■リスク評価1か所

1. いなげの浜海水浴場（千葉県千葉市）

2018年度以前：5か所

2019年度：新規6か所，更新 2か所

2020年度：新規6か所，更新 1か所

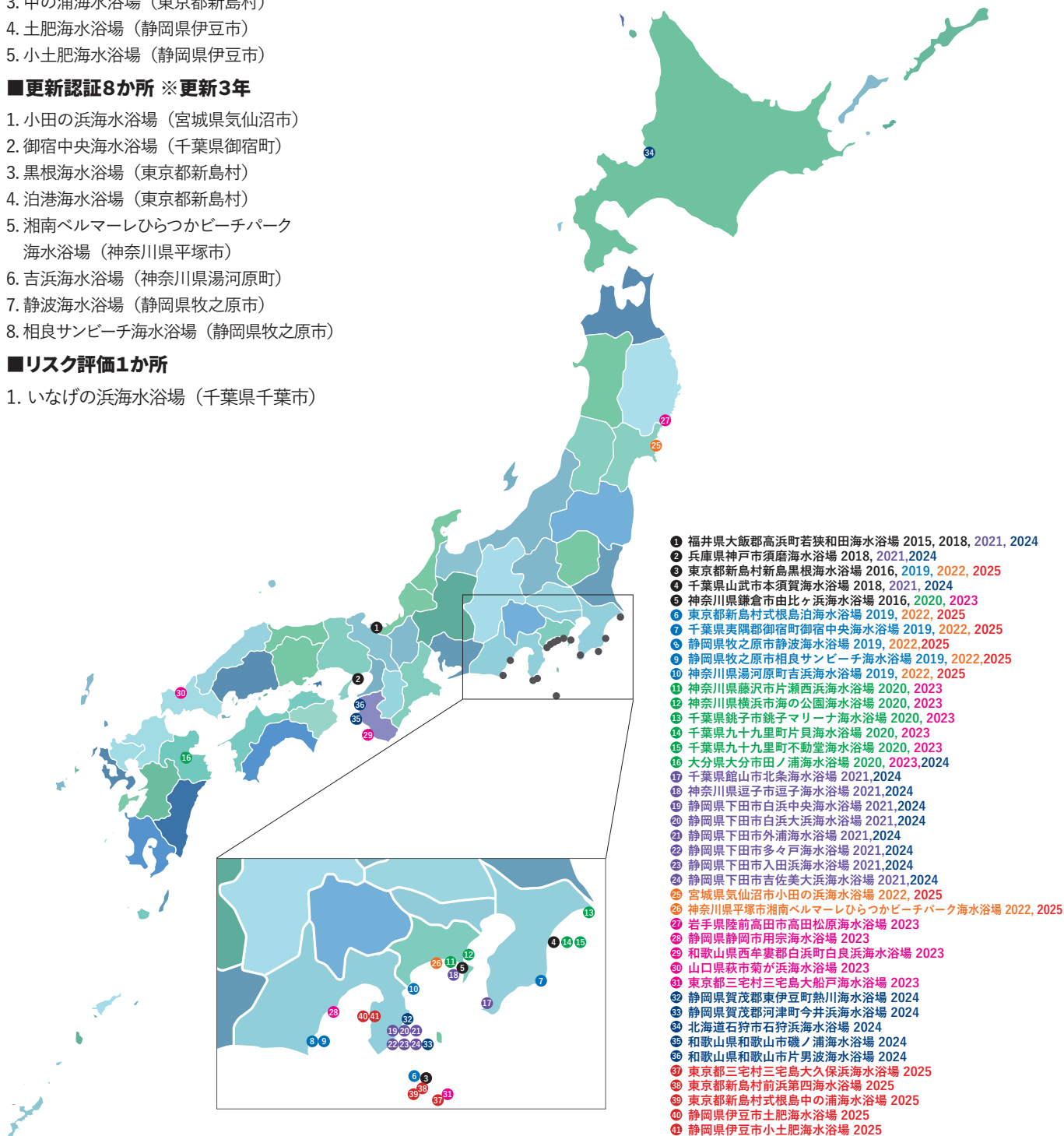
2021年度：新規8か所，更新 3か所

2022年度：新規8か所，更新 7か所

2023年度：新規5か所，更新 6か所

2024年度：新規5か所，更新 12か所

2025年度：新規5か所，更新 8か所



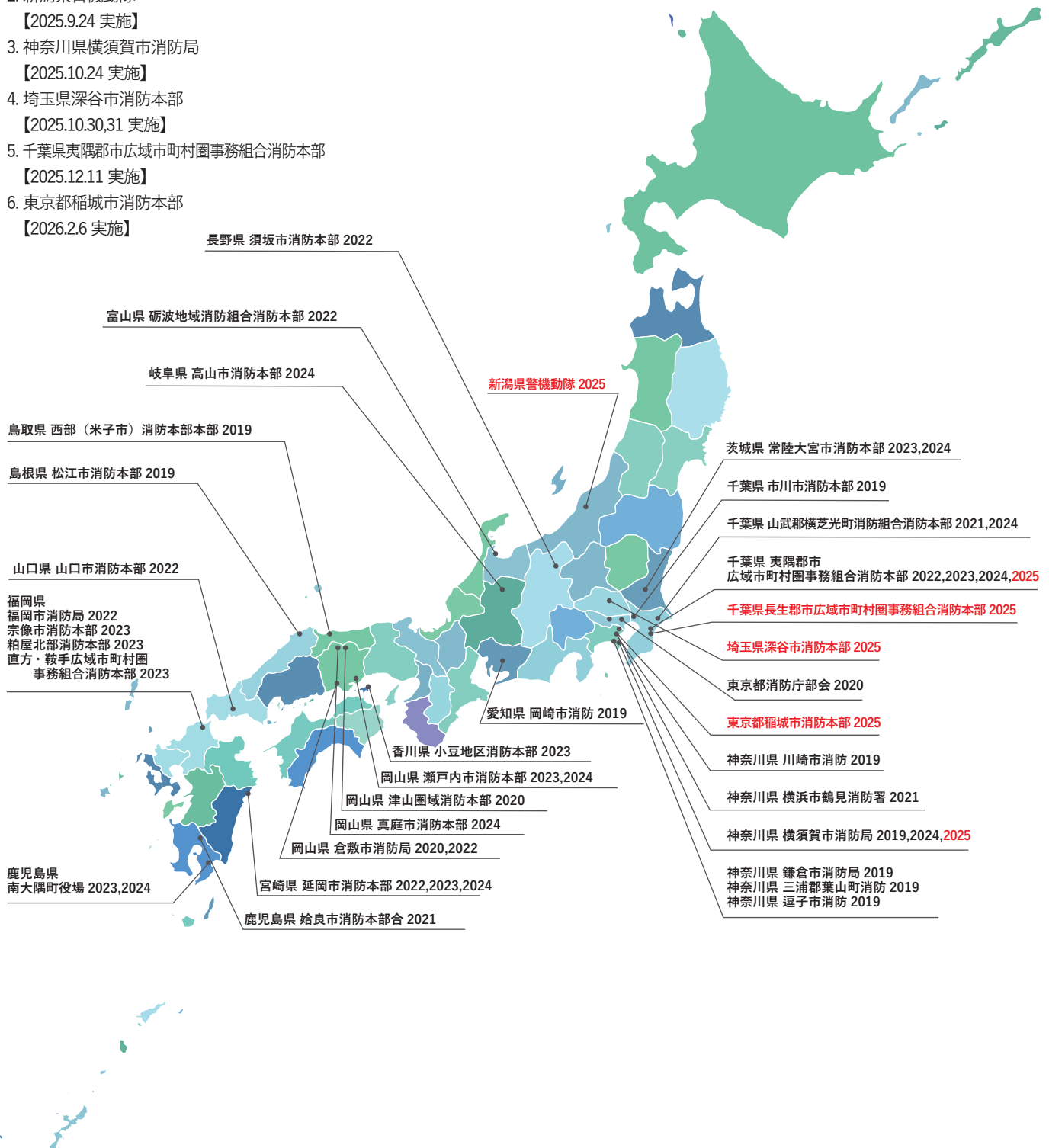
地域公的機関への IRB レスキュー技術提供

公的機関との連携強化と災害対応力強化を目的に、消防、警察等へ IRB レスキューの技術提供を実施。

■ 6 機関

1. 千葉県長生郡市広域市町村圏事務組合消防本部
【2025.6.30 実施】
2. 新潟県警機動隊
【2025.9.24 実施】
3. 神奈川県横須賀市消防局
【2025.10.24 実施】
4. 埼玉県深谷市消防本部
【2025.10.30,31 実施】
5. 千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部
【2025.12.11 実施】
6. 東京都稲城市消防本部
【2026.2.6 実施】

2019 年度：9 機関
2020 年度：4 機関
2021 年度：3 機関
2022 年度：7 機関
2023 年度：9 機関
2024 年度：9 機関
2025 年度：6 機関



運用5か所で離岸流に起因する事故ゼロ

海辺のみまもりシステム・開発、導入、有用性の検証【システム運用後の離岸流事故数の変化】

2019 年度：運用 1 か所、開発 1 か所
2020 年度：運用 2 か所、開発 1 か所
2021 年度：運用 3 か所、開発 1 か所
2022 年度：運用 4 か所、開発 1 か所
2023 年度：運用 5 か所、開発 1 か所
2024 年度：運用 6 か所、開発 1 か所
2025 年度：運用 7 か所

海辺のみまもりシステムが運用されている海水浴場では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、**離岸流事故（離岸流に起因するレスキュー）が減少。運用 5 か所で離岸流事故ゼロを実現しました。**

■アイコンの説明



【開発 2020, 運用 2021-】

福井県高浜町 若狭和田ビーチ



【開発 2024, 運用 2025-】

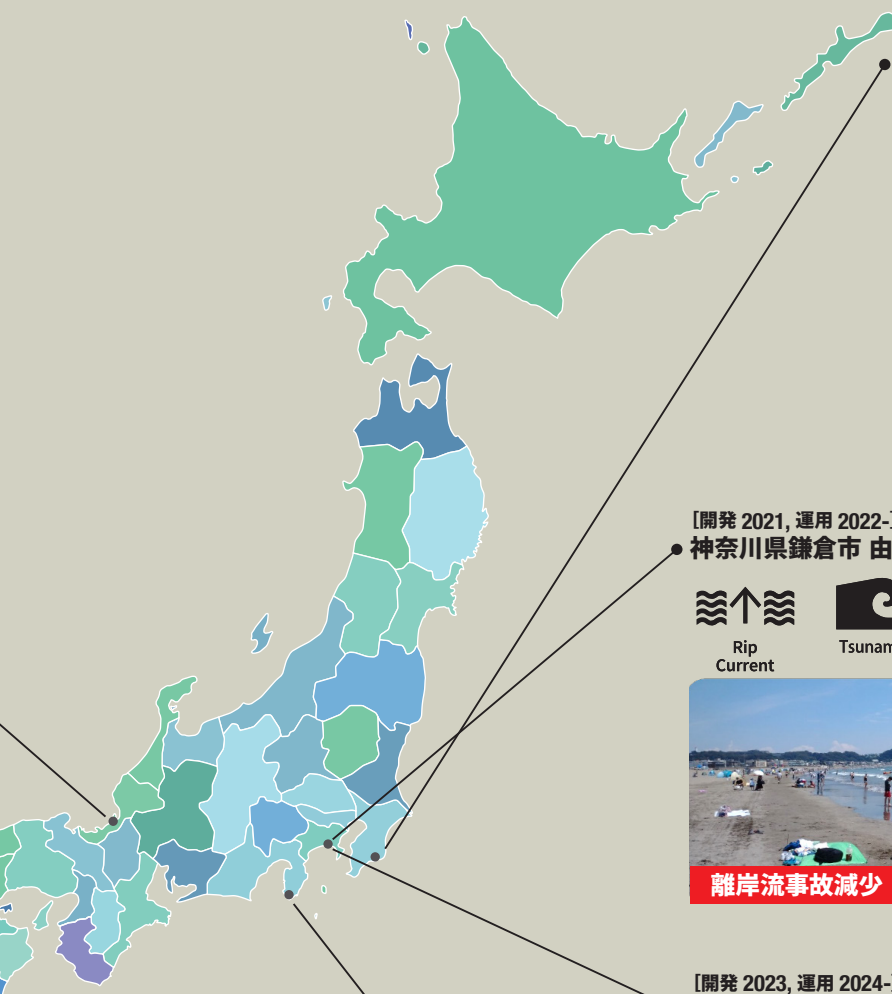
沖縄県国頭郡 恩納村アボガマ海岸



【開発 2025, 運用 2026-】

沖縄県宮古島市 渡口の浜





[開発 2018, 運用 2019-]

千葉県夷隅郡御宿町 御宿中央海水浴場



+



※ 2025 年；システム調整中

[開発 2021, 運用 2022-]

神奈川県鎌倉市 由比ガ浜海岸



+



[開発 2023, 運用 2024-]

神奈川県鎌倉市 鎌倉中央・材木座海水浴場



+



[開発 2022, 運用 2023-]

静岡県下田市 吉佐美大浜海水浴場



+



ドローンパトロール

■ドローン配備

- ・気仙沼ライフガード
7回使用（6時間25分飛行）
- ・葉山ライフセービングクラブ
9回使用（6時間30分飛行）
- ・鎌倉ライフガード
29回使用（17時間20分飛行）
- ・沖縄県ライフセービング協会
9回使用（6時間10分飛行）

■ライフセーバーによる

ドローンパトロール実施海岸

- ・宮城県気仙沼市 小田の浜
- ・神奈川県三浦郡 葉山
- ・神奈川県 鎌倉市 由比ガ浜・中央材木座
- ・神奈川県湘南広域
- ・東京都三宅村 三宅島
- ・沖縄県本島
- ・千葉県夷隅郡御宿町
- ・静岡県下田市 下田白浜大浜

■海辺のみまもりシステムとの連携

- ・福井県大飯郡高浜町 若狭和田
- ・沖縄県恩納村 アボガマ【試験飛行】
- ・沖縄県宮古島市 渡口の浜【試験飛行】

■日本財団助成事業ドローン配備

- ・宮城県気仙沼市 小田の浜
- ・神奈川県三浦郡 葉山
- ・神奈川県 鎌倉市 由比ガ浜・中央材木座
- ・沖縄県本島



沖縄県宮古島市渡口の浜

沖縄県本島
(自然海岸)



神奈川県湘南広域



沖縄県自然海域

ウォーターセーフティアイ

AI が検知した離岸流エリアを Augmented Reality(AR) 技術を用いて可視化するシステム **“Water Safety eye”** を開発した。スマートフォンで海を映せば離岸流発生場所を簡単に確認することが可能になり、“Water Safety eye” は海岸利用者の離岸流を含む様々な危険の認識、安全行動を支援する。海水浴場利用者へのアンケート調査の結果 “Water Safety eye” により 90%以上の利用者が危険（離岸流）を回避する行動を示し、回答結果から事故防止に有用であると考えられた。



Water Safety eye



イメージ



ウォーターセーフティアプリ

■ AppleStore

<https://apps.apple.com/jp/app/id1518725694>



■ Google Play ストア

https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.or.jla_lifesaving.beachsafe.user_app



救助救命本部総括



救助救命本部
本部長 石川 仁憲

2025 年は、全国 744 ヶ所の水浴場（環境省；令和 7 年度水浴場（開設前）の水質調査結果）に対して 205 ヶ所（28%；海水浴場 203 ヶ所、湖水浴場 2 ヶ所）の水浴場、2 ヶ所のプールでライフセーバーが監視・救助活動を行いました（JLA 登録クラブによる活動；延べ 36,865 人）。

ライフセーバーが活動する水浴場数は、2024 年の 213 ヶ所より減少しましたが、2025 年のパトロールログ集計によれば、総利用者数は 441 万人であり、2024 年の 392 万人より増加しました。ただし、Covid-19 によるパンデミック前の 2015 ～ 2019 年の 986 万人に対して未だ 44 % に留まっています。2025 年の Preventive Action（意識ありの溺者の救助）は 552 件、Emergency Care（意識なしの溺者の救助）は 11 件であり、いずれも 2024 年の EC450 件、PA8 件より増えました。救助の自然要因は 2024 年と異なり、従来の特徴である離岸流に流される（251 件）が最も多く、次いで風に流される（133 件）でした。一方、個人要因は、泳力不足（327 件）、疲労（109 件）、パニック（124 件）でした。また、ライフセーバーは溺水だけでなく、クラゲやエイなどの刺胞毒、熱中症、擦過傷、切創、捻挫、打撲など様々な傷病に対する応急手当を行っており、その件数は 3,515 件、また救急搬送は 136 件でした。これらの値はいずれも 2024 年の 4,621 件、183 件より減少しました。

活動記録を電子化した e-log の運用により、リアルタイムでの集計が可能なることから、7 月～8 月の夏季期間中に計 4 回の集計結果を都道府県協会、各ライフセービングクラブに報告することができました。日本財団「海のそなえプロジェクト」の HP を通じて夏季シーズン中に計 4 回の救助実績等を公表し、溺水事故の要因を周知しました。また、海上保安庁など公的救助機関の速報と同時期の 9 月 10 日に 2025 年の救助や FA 実績を 201 ヶ所の速報版として公表することができました。このように、リアルタイムの集計結果報告、速報公表は、事故防止のための注意喚起として有効と考えます。また、e-log を本運用したことで、①救助は利用者数に直接比例しない、②要救助者は 24 歳以下が多い、③要救助者は男性が女性の約 2 倍、④救助は昼すぎに多く、14 時台がピーク、⑤浮き輪

などの浮具を使用している利用者が要救助者になりやすいが、EC の場合は浮具なしが多い、⑥ 20 ～ 24 歳は離岸流による救助が最も多く、5 ～ 9 歳は陥没や急深にはまることが原因の救助が離岸流に次いで多い等、新たな溺れに関する特徴が明らかになっています。救急搬送では、現場における救急隊とライフセーバーの連携が重要であることから、シミュレーション審査会を 2016 年より全国各地で実施しています。2025 年は 1 地域での開催となりましたが、実施者 66 名（11 チーム）に係員、見学者を含めて計 194 名のライフセーバーと公的救助機関の皆様にご参加いただきました。

日本財団助成事業「ライフセービングの高度化」では、公的救助機関との連携に関して、2025 年は消防等 6 機関を対象に IRB 技能講習会を行いました。海水浴場のリスク評価は新規 5 ヶ所で実施し、2026 年 3 月時点で JLA 認定海水浴場は計 41 ヶ所になりました。海辺の事故防止の新たな取り組みとして、海水浴場や海水浴場内外を含む広域海岸を対象に、計 7 地域でドローンパトロールが実施されました。AI と IoT を活用した“海辺のみまもりシステム”は、沖縄県宮古島渡口の浜に新規導入し、既存 6 ヶ所（うち 1 ヶ所保守点検）の各海水浴場・海岸では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、離岸流事故（離岸流に起因する救助）が大きく減少、もしくはゼロ件でした。システムには津波防災機能やヘルプシグナル検知機能、ドローン連動機能（AI により離岸流エリア内の要救助者が検知されると自動でドローンを現場まで飛行し注意喚起を行う機能）も有しており、2025 年は若狭和田ビーチにてシステム・ドローン連動が運用されました。さらに、2025 年は、海岸利用者がより確実に離岸流などの危険箇所を認識できるように、離岸流発生箇所や危険箇所を利用者のスマートフォン画面に可視化する AR システム“Water Safety eye”が神奈川県鎌倉市由比ガ浜や沖縄県自然海岸で試験運用されました。

救助救命本部では、各委員会の活動により約 30 の事業を進めております。水辺・海辺の事故ゼロにむけて、様々なアプローチで確実に進めて参ります。引き続きよろしく願いいたします。



水難事故対策の常識を疑う

毎年発生し続けている、海や川での「水の事故」。さまざまな対策が取られてきましたが、事故は減っていません。どうすれば、水辺をもっと、安全に楽しむことができるのか。事故を減らすために、これまでの水難事故対策の常識を疑い、科学的なデータや事実を集めながら、市民の声に耳を傾けることに、事故を減らすヒントがあるかもしれない。“海のそなえ”プロジェクトは、オールジャパンで「そなえ」の新たな常識をつくることをめざす為に2024年に立ち上がった3か年プロジェクトです。日本ライフセービング協会はそのコンソーシアムの一員で、主に、「水難事故の実態調査」「海のそなえ普及コンテンツ開発」「水難事故防止教育プログラム」において、調査、開発、プログラム実施を担いました。(公式HP <https://uminosoe.uminohi.jp/>)

■コンソーシアム4団体：日本財団 / うみらい環境財団 / 公益社団法人日本水難救済会 / 公益財団法人日本ライフセービング協会
 ■調査・開発協力：中央大学研究開発機構

ナショナルデータから実態を知る

水難事故の実態調査

GW(2025年4月26日～5月6日)と、6～9月を対象に、報道調査により溺水事故データの収集・分析を行った。“海のそなえHP”にて定期的に計12回の速報データの結果を掲載し、注意喚起や事故減少を図った。分析結果より、2024年と2025年の7～8月に発生した溺水事故数は265人と269人とほぼ同じであり、週別推移や行為・アクティビティ、年齢、性別などの特徴も似ていたことから、毎年、類似した溺水事故が発生していると考えられた。溺水の特徴に違いがみられない理由として、溺水事故は、気温や降雨などの気象条件ではなく、人の行動に強く関係すると考えられた。また、時期や水域別に事故の特徴が異なることから、注意喚起のターゲットや内容を時期や水域別に変えていく必要がある。一方、2ヶ年で特徴が異なる水域もあることから、正しい溺水事故の実態を明らかにするため、継続調査が必要がある。警察庁データと報道データを比較すると、水難事故者数は、報道は警察庁の50%カバーしており、死者・行方不明数では82%カバーしていた。総数は異なるものの、年代や水域、行為の特徴は類似し、特に、子供の死亡事故に関しては水難事故者数が一致していた。海上保安庁のデータと比較すると、総数が異なるものの、年代や水域、行為の特徴を類似していた。これらのことから、報道調査の結果は、一定の信頼性があるといえた。

データベース作成

警察庁と海上保安庁の夏季水難・海難事故データと報道調査データを用いて、夏期の溺水事故の実態を明らかにした。自然水域(海、河川・湖沼池・用水路等)で発生した溺水、溺死に対する総務省の救急搬送人員データとウツタインデータを結合することで、通年の溺水事故の実態を明らかにした。具体的には、2022年は574件(溺水243人、溺死331人)、2023年は474件(溺水185人、溺死289人)であった。分析結果をとりまとめ、2024年と2025年の夏季の水難事故のデータベースを作成した。

ナショナルデータシステム検討

速報性があり、溺水事故に関する情報量が多い報道データの集計・分析を基本に、各機関(警察庁、海上保安庁、消防庁、厚労省、日本ライフセービング協会)のデータを統合する4つのナショナルデータシステムの集計、分析方法を検討、提案した。また、定義、システムとデータベースの管理、運用方法を検討、提案した。

コンテンツ開発

溺れを疑似体験できる「溺れるVRコンテンツ」を開発。映像や機材の貸し出しを行う。



溺れるVRコンテンツ

体験して学び、行動変容へ

カヌスラで海そなえ

東京 2020 五輪のカヌー・スラローム競技会場跡地である「カヌー・スラロームセンター」(東京都江戸川区)を活用した、新しい水難事故防止対策教育プログラムを開催。リアルな”おぼれ”の体験で、命を守る判断力と行動力を身につける、世界最高レベルの水辺施設で水難事故防止教育プログラムを実施した。

■プログラム概要

名称：カヌスラで海そなえ

開催期間：2025 年 6 月 18 日～9 月 11 日

場所：カヌー・スラロームセンター (東京都江戸川区臨海町 6-1-1)

対象：学校教員、指導者、一般(小学3年生以上シニア/中学生までは保護者同伴必須、シニアは50歳以上)

<内容>

海プログラム(一般・シニア対象)

ライフジャケット着用の仕方・離岸流って?(救助デモンストレーション)・

浮き方とヘルプテクニック・サバイバルスイムなど

川プログラム(シニア対象)

ライフジャケット着用の仕方・ラッコのポーズで泳ぐ、流れる・スローロープ・ペットボトルで救助・水の流れの圧力を体験など

ラフティング体験

一般対象の回では、海プログラムとともに、ラフティングも体験



流れる水の楽しさと、本当のそなえを体験して学ぶ



カヌー・スラロームセンター



資格認定事業

開催数と資格発行数

ライフセービングサポーター講習会

	2025 開催数	2025 発行数	2024 開催数	2024 発行数
BLS	142	6,747	98	5,954
ウォーターセーフティ	146	13,553	114	12,239

基礎資格認定講習会

	2025 開催数	2025 発行数	2024 開催数	2024 発行数
BLS	209	2,428	197	2,071
ウォーターセーフティ	150	1,462	139	1,329

認定ライフセーバー資格認定講習会

	2025 開催数	2025 発行数	2024 開催数	2024 発行数
ベーシック・サーフライフセーバー	81	796	79	778
アドバンス・サーフライフセーバー	22	162	26	178
IRB・クルー	8	52	12	59
IRB・ドライバー	6	26	11	44
プールライフガード	25	153	24	114
アドバンス・プールライフガード	2	8	3	10
リーダー	8	67	10	79
PWRC・クルー	6	23	4	37
PWRC・オペレーター	0	0	3	11
資格更新	118	788	117	599
資格復活	22	27	41	66
指導員養成(新規)	15	87	16	88
指導員更新(継続)	16	430	0	0

資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

■資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

* 当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

* ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業(相互扶助等事業)として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。

1 BLS^{※1}（CPR^{※2}+AED）コース

※1 Basic Life Support（一次救命処置）心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

※2 cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

2 ウォーターセーフティ（WS^{※1}）コース

※1 水辺において自身を守ることのできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

3 資格更新講習

【認定基準】

- ①公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ②水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

■ライフセービングサポーター講習会の開催

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

■資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。

■株式会社 SUBARU 協賛事業

都道府県協会	日程	会場	日程	会場
日本ライフセービング協会	4/6	東京スバル株式会社 本郷店	8/3	スバル中四国株式会社 高松木太店
	7/8	株式会社SUBARU 本社ビル		
北海道ライフセービング協会	12/13	北海道スバル株式会社 清田店		
岩手県ライフセービング協会	8/23	スバル東北株式会社 盛岡上堂店		
山形県ライフセービング協会	3/13	山形スバル株式会社 山形 SUBARU		
宮城県ライフセービング協会	6/8	スバル東北株式会社 サンモーレー番町商店街アーケード		
東京都ライフセービング協会	1/25	東京スバル株式会社 練馬店		
神奈川県ライフセービング協会	6/2	神奈川スバル株式会社 東名川崎店	1/23	神奈川スバル株式会社 青葉台店
	10/27	神奈川スバル株式会社 カースポット泉店	2/7	神奈川スバル株式会社 青葉台店
	11/8	サーフビレッジ	2/27	神奈川スバル株式会社 秦野店
	11/16	神奈川スバル株式会社 海老名店		
千葉県ライフセービング協会	1/17	千葉スバル株式会社 松戸店		
静岡県ライフセービング協会	4/18	株式会社静岡スバル 本社		
愛知県ライフセービング協会	10/27	名古屋スバル自動車株式会社 本社	11/15	岐阜スバル自動車株式会社 県庁前店
	11/9	三重スバル自動車株式会社 松坂店	11/16	名古屋スバル自動車株式会社 鳴海浦里店
京都府ライフセービング協会	11/8	京都スバル株式会社 久世橋店		
島根県ライフセービング協会	8/6	スバル中四国株式会社 松江店		
岡山県ライフセービング協会	8/3	スバル中四国株式会社 岡山久米店		
広島県ライフセービング協会	4/10	スバル中四国株式会社 広島スバル本社	8/10	スバル中四国株式会社 中広店
	8/9	スバル中四国株式会社 高岡店		
福岡県ライフセービング協会	1/15	福岡スバル株式会社 博多駅東店	2/19	福岡スバル株式会社 小倉東インター店
	1/15	福岡スバル株式会社 福重店	2/19	福岡スバル株式会社 西港店
	1/21	福岡スバル株式会社 部品センター	2/26	福岡スバル株式会社 長岡店
	1/21	福岡スバル株式会社 産業機械事業部	2/26	福岡スバル株式会社 春日店
	1/26	福岡スバル株式会社 八幡店	3/9	福岡スバル株式会社 櫛原店
	1/26	福岡スバル株式会社 飯塚店	3/9	福岡スバル株式会社 上津店
	2/16	福岡スバル株式会社 福岡店	3/12	福岡スバル株式会社 筑紫野店
	2/16	福岡スバル株式会社 新宮店	3/12	福岡スバル株式会社 大牟田店
	2/16	福岡スバル株式会社 千早店		
	2/19	福岡スバル株式会社 行橋店		
大分県ライフセービング協会	8/28	大分スバル株式会社 大分店	3/9	大分スバル株式会社 大分店
	8/28	大分スバル株式会社 大分東店	3/9	大分スバル株式会社 東大分店
	2/20	大分スバル株式会社 日田店	3/14	熊本スバル株式会社 南高江店
	2/20	大分スバル株式会社 中津店	3/15	熊本スバル株式会社 東店
	3/9	大分スバル株式会社 別府店		
宮崎県ライフセービング協会	3/15	南九州スバル株式会社 花ヶ島店	3/15	南九州スバル株式会社 延岡店
	3/15	南九州スバル株式会社 宮崎南店	3/15	南九州スバル株式会社 都城店
鹿児島県ライフセービング協会	10/19	南九州スバル株式会社 下荒田店		
沖縄県ライフセービング協会	7/19	沖縄スバル株式会社 豊崎店	1/25	沖縄スバル株式会社 豊崎店
	1/18	沖縄スバル株式会社 浦添店		

認定ライフセーバー養成のための 資格認定事業

■事業実施の背景

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

■事業の目的

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

■事業の内容

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
- (2) プールライフガーディングコース
- (3) IRB コース

※ Inflatable Rescue Boat … 救助用ボートの意

- (4) ジュニアエデュケーションコース
- (5) PWRC コース

※ Personal Water Rescue Craft … 救助用水上バイクの意

さらに最上位資格として下記の資格がある。

- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター（指導員）

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS（CPR＋AED）コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15歳以上でなければ資格を取得できない。

(1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサーライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRBクルー及びIRBドライバー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) PWRC コース

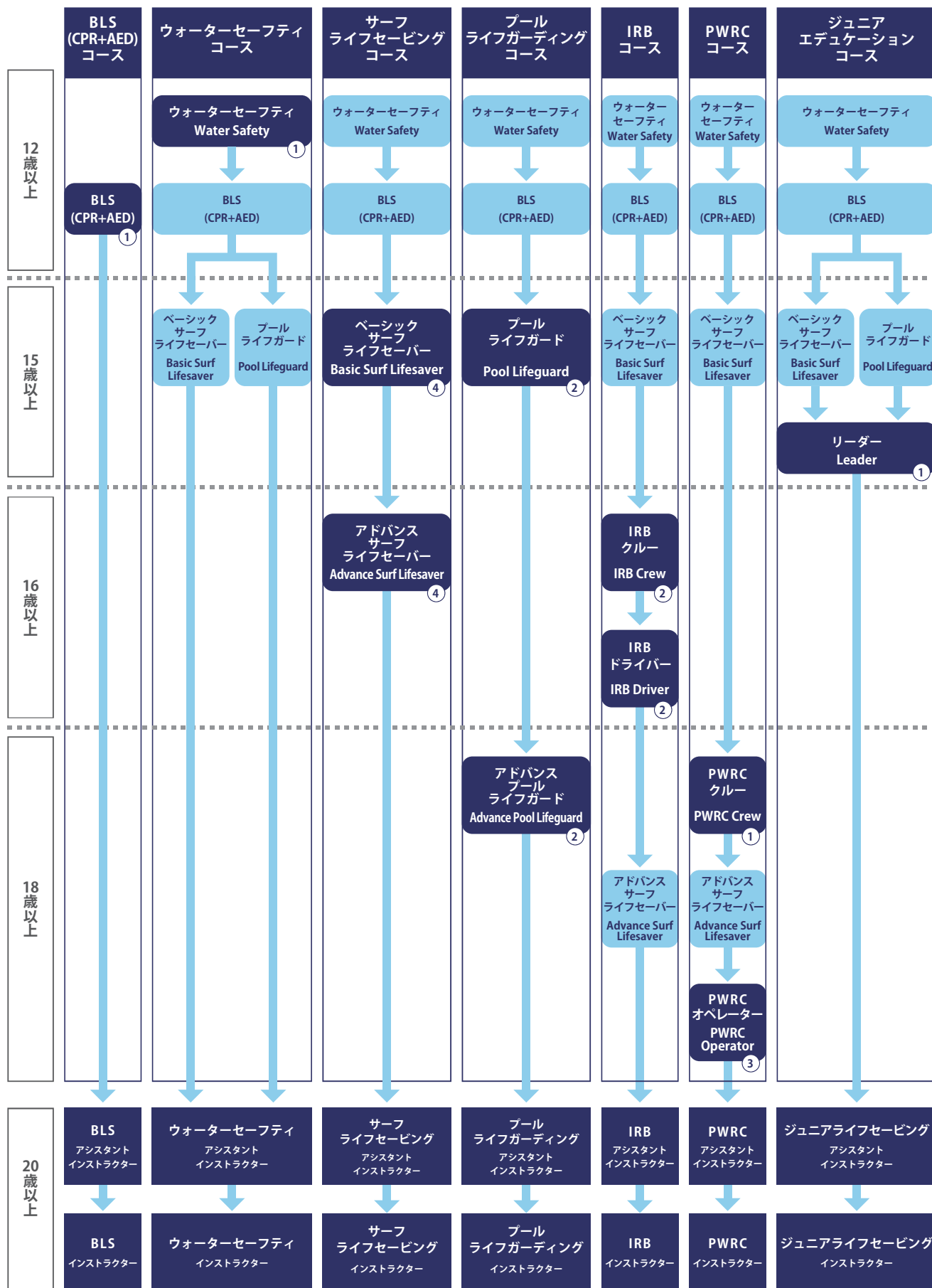
基礎資格及びベーシックサーライフセーバーもしくはアドバンスサーライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はPWRCクルー資格及びPWRCオペレーター資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格（指導員資格について）

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRBアシスタントインストラクター
- ・IRBインストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・PWRC アシスタントインストラクター
- ・PWRC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。



2026年4月1日施行

- BLS=Basic Life Supportの略で一次救命処置を意味します。
- IRB=Inflatable Rescue Boatの略
- PWRC=Personal Water Rescue Craftの略
- BLSとウォーターセーフティの資格はどちらからでも受講できます。
- 右下の○の中の数字は講習会受講日数です。

指導員資格認定講習会

BLS 指導員養成講習会（以下含め計 526 名）

日 程	会 場	合格者
11 月 8、9、15、16 日	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス（茨城県龍ヶ崎市）	13
11 月 15、16、29、30 日	デ・アウネさっぽろ他（北海道札幌市）	2
12 月 6、7、13、14 日	東京医業看護専門学校（東京都江戸川区）	6
12 月 13、14、20、21 日	下関生涯学習プラザ（山口県下関市）	4
1 月 24、25、31、2 月 1 日	大阪ハイテクノロジー専門学校（大阪府大阪市）	7
1 月 30、31、2 月 1、2 日	宜野湾マリンスポーツセンター（沖縄県宜野湾市）	9
3 月 14、15、21、22 日	静岡市清水市民活動センター	7
	合計	48

ウォーターセーフティ指導員養成講習会（以下含め計 395 名）

日 程	会 場	合格者
12 月 6、7 日	流通経済大学（茨城県龍ヶ崎市）	7
2 月 26、27 日	タビックタラソセンター宜野座（沖縄県国頭郡）	5
2 月 22、23 日	スポーツクラブビッグラン（広島県福山市）	3
2 月 28、3 月 1 日	インフロンア草津アクアティクスセンター（滋賀県草津市）	6
1 月 17、18 日	アクアブルー多摩（東京都多摩市）	6
	合計	27

サーフ指導員養成講習会（以下含め計 269 名）

日 程	会 場	合格者
4 月 20、26、27 日	相良ライフセービングハウス他（静岡県牧之原市）	2
11 月 23、29、30 日	三浦市大浦海岸（神奈川県三浦市）	8
	合計	10

ジュニアライフセービング指導員養成講習会（以下含め計 57 名）

日 程	会 場	合格者
3 月 21、22 日	慶應義塾大学日吉キャンパス（神奈川県横浜市）	2
	合計	2

STEW 条約に基づく基本訓練講習法

生存訓練（以下含め計 57 名）

日 程	会 場	参加数
7 月 6 日	甲賀 B&G 海洋センター	9
8 月 3 日	甲賀 B&G 海洋センター	7
11 月 30 日	甲賀 B&G 海洋センター	13
12 月 7 日	甲賀 B&G 海洋センター	9
1 月 25 日	甲賀 B&G 海洋センター	10
3 月 8 日	甲賀 B&G 海洋センター	9
	合計	57

認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

認定審判員は、日本ライフセービング協会が主催または認定する競技会において審判を行う技能を有する者を養成する講習会である。審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

認定審判員資格認定講習会

C級認定審判員養成講習会

日 程	会 場	合格者
5月10日	オンライン	8
5月11日	オンライン	24
5月10日	そびあしんぐう	8
6月15日	オンライン	2
7月26日	オンライン	30
7月27日	オンライン	37
8月16日	オンライン	1
8月24日	オンライン	25
8月23日	オンライン	26
9月16日	日本体育大学	1
11月15日	オンライン	4
11月16日	オンライン	12
12月14日	オンライン	34
12月14日	東海大学静岡キャンパス	14
1月10日	オンライン	17
1月11日	オンライン	9
	合計	252

審判員研修会

日 程	会 場	参加数
8月19日	オンライン	29
8月26日	オンライン	36
8月30日	オンライン	23
9月2日	オンライン	28
1月6日	オンライン	41
1月9日	オンライン	27
	合計	184

JLA ACADEMY本部総括



JLA ACADEMY 本部
本部長 佐藤 洋二郎

2025 年度、JLA アカデミーはひとつの挑戦を試みました。それは、BLS（一次救命処置）講習会において人工呼吸の実技習得を再導入したことです。

市民救助者を対象にした BLS 講習会の際、人工呼吸は JLA アカデミーに限らず他団体でも当たり前のよう導入されていました。しかしながら、COVID-19 の影響により、2020 年以降の講習会からは人工呼吸の指導が除外されました。これに伴い、市民救助者が学ぶ BLS は、胸骨圧迫のみの心肺蘇生と AED の使用方法の習得が主流となります。この内容は、市民救助者にとってはシンプルで比較的習得しやすいものだったかもしれません。

一方、JLA の BLS 講習会の受講者の多くは、その後認定ライフセーバー資格の取得に進みます。認定ライフセーバーが実施する心肺蘇生は、溺水者に対して実施することを想定していますが、溺水者の体内には酸素が不足しているため、人工呼吸による酸素供給は欠かせません。この現実を考えると、どこかのタイミングで人工呼吸の実技内容を再導入する必要があると考えていました。

そこで、2024 年度中に JLA メディカルダイレクターを交えて協議し、2025 年 4 月以降の BLS 講習会から人工呼吸の実技を復活させることになりました。感染防護具もコロナ禍以前に使用されていたシートタイプではなく、ドーム状で一方弁とフィルターの付いているマスク型を導入しました。

4 月から講習会がスタートしましたが、人工呼吸の復活により感染の点から敬遠されて受講者が減ってしまわないか、マスクの扱いが技術的に困難で現場からネガティブな意見が

出てこないか、不安を抱えていました。2025 年度を終え結果を見てみると、BLS 講習会の認定数は 2,428 名（2024 年度：2,071 名）という過去最高の実績となりました。人工呼吸を導入したことによるネガティブなコメントはほぼなく、むしろマスク型を導入したことで息漏れもなく、確実に人工呼吸ができるようになりました。また感染対策として以前のシートタイプよりも抵抗感がなくなったことで、現場で安心して活用できる技術を提供できるようになりました。

これらの施策により、認定ライフセーバーの基礎資格であるベーシック・サーフライフセーバーやプールライフガード資格取得者も、全員がマスクを用いた人工呼吸を習得していることになります。このことは、現場に入る認定ライフセーバーの救護スキルの質の担保に繋がり、公益財団法人日本ライフセービング協会の果たす務めと考えています。

その他の取り組みとして、2025 年度は講習会費の値上げにも着手し、このことは受講者の皆様の負担増にもなりましたが、2019 年の消費税 10% への増税の影響もあり、避けられない対応でした。丁寧に対応してくださった都道府県協会および第 1 種クラブ、そして JLA 指導員の皆様、またこれを受け入れて受講してくださった受講者の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

JLA アカデミーは、水辺の笑顔を守り抜くために、確かな知識と技術をお伝えできるよう、これからも講習会の内容を時代と現場の求めに応じて、柔軟に対応して参ります。2026 年度も、ぜひよろしくお願いいたします。

安全・防災教育・環境保全事業

安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

■臨海教育へのライフセービング指導協力

臨海教育等を通じて安全・防災教育を行った。

- ▽主催：北区教育委員会 岩井臨海学園
日程：7月19日～8月11日
会場：岩井海岸（千葉県南房総市）
人数：1,391名
- ▽主催：葛飾区教育委員会 岩井臨海学校
日程：7月21日～7月29日
会場：岩井海岸（千葉県南房総市）
人数：2,650名
- ▽主催：国土館大学
日程：7月14日～7月15日
会場：岩井海岸（千葉県南房総市）
人数：163名

■小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けたICT教育プログラムの開発と実践を行った。学校によってICT教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと状況に合わせて実施した。

■海洋教育支援推進に向けたICT教育プログラム開発 ＜日本財団助成事業＞

＜開発目的＞

海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のためのICT教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。

＜実施内容＞

「e-Lifesaving」コンテンツ改修と追加制作

- ・「命を守るための溺水レポート」
- ・事前学習「湖編」
- ・幼児・低学年向けコンテンツ

■学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行った。

- ▽主催：足立区教育委員会
水泳事故防止研修会
日程：5月30日
会場：千住温水プール（東京都足立区）
人数：60名
- ▽主催：東京都中央区阪本小学校
日程：6月12日
会場：阪本小学校（東京都中央区）
人数：15名
- ▽主催：寝屋川市総合教育研修センター
日程：6月16日
会場：寝屋川市総合教育研修センター（大阪府寝屋川市）
人数：30名

安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

■防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証／調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関：気象庁

▽内容

2020年12月24日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより共催事業を開始した

▽2025年の成果

東京都北区岩井臨海学園

7月19日～8月12日

参加者 中学1年生 1391名

臨海学園のプログラム中に津波フラッグを掲揚し避難訓練を実施

＜津波フラッグ＞

2020年の気象庁委員会にて津波フラッグが設定された。2021年、2022年とコロナの影響を受けたが各地の海水浴場では津波フラッグが配備されている。全国的に統一されていなかった津波避難時の旗が統一されたことでリスク管理が進んだ。なお、フラッグ決定には様々な意見があったが、聴覚障がい者の意見や視覚障がいにも配慮して、赤と白の格子模様である「U旗」が採択された。

＜気象庁ホームページ＞

●津波フラッグ解説ページ

http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

●気象庁 / 知識・解説 YouTube チャンネル「津波フラッグ」をおぼえよう!!

<https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxmFpHM>

●マンガ小冊子「津波フラッグ」をおぼえよう!!」を継続配布

■小中学校等へのライフセービング指導協力

主催 事業内容（イベント名）	日程	会場	参加数
大阪教育大学附属池田小学校 室内学習プログラム	6月13日	大阪教育大学附属池田小学校（大阪府池田市）	100名
大村市立西大村小学校 プール実技プログラム	6月19日	大村市立西大村小学校プール（長崎県大村市）	226名
大阪府立汎愛高等学校 室内学習プログラム	6月20日	大阪府立汎愛高等学校（大阪府大阪市）	120名
深谷市立川本北小学校 プール実技プログラム	6月25日	川本北小学校プール（埼玉県深谷市）	60名
横浜市立中田中学校 プール実技プログラム	7月1日	横浜市立中田中学校プール（神奈川県横浜市）	374名
高知市布師田小学校、三里小学校 プール実技プログラム	7月7日	高知市布師田小学校、三里小学校（高知県高知市）	573名
高知市春野東小学校、浦戸小学校 プール実技プログラム	7月8日	高知市春野東小学校、浦戸小学校（高知県高知市）	
高知市土佐山学舎、介良潮見小学校 プール実技プログラム	7月14日	高知市土佐山学舎、介良潮見小学校（高知県高知市）	
高知市鴨田小学校 プール実技プログラム	7月15日	高知市鴨田小学校（高知県高知市）	
高知市鏡小学校 プール実技プログラム	7月16日	高知市鏡小学校（高知県高知市）	
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月10日	狛江第6小学校プール（東京都狛江市）	83名
町田市小山田小学校 プール実技プログラム	7月10日	町田市小山田小学校（東京都町田市）	78名
世田谷区世田谷小学校 プール実技プログラム	7月22日	世田谷区世田谷小学校（東京都世田谷区）	43名
アオバジャパンインターナショナルスクール プール実技プログラム	9月22日	アオバジャパンインターナショナルスクール（東京都練馬区）	61名
小金井市立本町小学校 室内学習プログラム	10月26日	小金井市立本町小学校（東京都小金井市）	40名



安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

■ジュニア・ライフセービング教室の開催 ＜日本財団助成事業＞

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

実施団体	参加数
慶應義塾幼稚舎 LSC	40 名
三浦 SLSC	24 名
天橋立 LSC	12 名
新宮 LSC	22 名
湯河原 LSC	11 名
札幌 LSC	10 名
滑川 LSC	12 名
沖縄県 LS 協会	12 名
館山 SLSC	50 名
高知県高知市黒潮町	18 名

■ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ＜日本財団助成事業＞

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパーボード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	150
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパーボード	20
ジュニア教室用ポップアップバーナー	10
ジュニアテキスト	4,000
水辺の安全啓発クリアファイル	20,000
ジュニア用ウェットスーツ	150
ビーチかるた	10

■青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	2月28日、3月1日
会場	オリンピックセンター (東京都渋谷区)
内容	学生リーダーズキャンプ
参加数	36 大学 54 名

■ライフセーバーに対する研修会

「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会

日程	会場 参加者数
11月2日	海の公園(神奈川県横浜市) 11 チーム / 66 名 スタッフ・見学 / 128 名

■スキルアップ研修会

日程	内容 会場／参加数
6月28日	レスキューミーティング 千葉県山武市蓮沼 41 名
6月29日	サーフトレーニングクリニック 富山県富山市八重津浜 8 名
7月5日	サーフトレーニングクリニック 千葉県山武市蓮沼 22 名
9月21日	サーフトレーニングクリニック 宮崎県宮崎市青島 15 名
10月4日	サーフトレーニングクリニック 鹿児島県熊毛郡屋久島町 10 名
10月11日	レスキューミーティング 神奈川県藤沢市 96 名
10月18日	サーフトレーニングクリニック 京都府京丹後市 6 名
1月31日	サーフトレーニングクリニック 神奈川県横浜市金沢区 12 名
2月21日	第2回事例検討会 東京アクアティクスセンター 75 名

■インフレーターレスキューボート（IRB[※]）に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催

※ Inflatable Rescue Boat

・・・救助用ボートの意
浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■IRB を用いた救助技術講習会 ＜日本財団助成事業＞

日程	参加地域消防 参加数
6月30日	千葉県長生郡市広域市町村 圏事務組合消防本部 21 名
9月24日	新潟県警機動隊 9 名
10月24日	神奈川県横須賀市消防局 15 名
10月30日・ 31日	埼玉県深谷市消防本部 11 名
12月11日	千葉県夷隅郡市広域市町村 圏事務組合消防本部 6 名
2月6日	東京都稲城市消防本部 24 名

■ 誰でも海を楽しめる環境の創出

「誰もが海で遊べるための海辺のノーマライゼーションに関する手引き」（2024年3月完成）をホームページで公開し、障がい者を対象とするサポートカリキュラムの実施をしている加盟ライフセービングクラブ（LSC）の継続実施を支援するとともに、実績のない加盟ライフセービングクラブが実施する際の手引きとした。また、ライフセービングクラブの希望に応じて、器材（水陸両用車いす、ニッパード、ライフジャケット）の貸出しを行った。

環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

■ ビーチクリーン活動

主な日程	会場 主な内容
7月1日 ～8月31日	各地の海水浴場等(約 200 か所) ビーチクリーン活動



シミュレーション審査会



サーフトレーニングクリニック



防災教育プログラム



IRBを用いた救助技術講習会

ライフセービング教育本部総括



ライフセービング
教育本部
本部長 松本 貴之

教育本部では、すべての事業が「水辺の事故ゼロ」につながっているかを常に問い、学校と地域教育の支援、e-Lifesavingの活用を柱としたウォーターセーフティ教育の推進に取り組みました。特に、子どもたちが自他の命に向き合い、守り合うための意識・知識・技能を育むことを重視し、全国規模での教育展開を進めました。

学校現場においては、「e-Lifesaving」を活用した授業実践とともに、水泳の実技授業では、水中での身のこなしを中心としたセルフレスキュー、万一の対処法や救助要請の方法などを軸とした指導を推進しました。また、教員向けの研修会も積極的に実施し、対処教育にとどまらない未然防止教育の重要性について理解を深めていただくことを軸に展開しました。これらの取り組みにより、現場での実践力と再現性の高い教育モデルの構築が着実に進んでいると実感しています。

地域におけるジュニアライフセービング教育では、全国10団体への支援を行い、各地域クラブを通じて多くの子どもたちにプログラムを展開することができました。器材および人材支援等を通じて、これまで実施が困難であったクラブにも教育機会を創出し、地域格差の是正と活動の裾野拡大に寄与しました。

ICT教育分野では、「e-Lifesaving」の改修とコンテンツ拡充を重点的に進めました。動画コンテンツの新規制作や教材内の文章・データの更新により、より実践的で視覚的にも理解しやすい教材へと進化させることができました。学校教育におけるICT教材としての活用が進み、年間約6.7万人のユーザーに利用されるなど、教育現場への定着が進んでいます。さらに、アクセス解析をもとに検索流入や学習導線の最適化を図り、子どもたちが主体的に学び続けられる環境づくりにも取り組みました。加えて、スポーツ庁「学校における児童生徒等に対する水泳指導等について」※1の別紙掲

載に加え、「文部科学省×学校安全」※2からも周知が図られ、水泳授業を安全に実施するための教員向け推奨動画として紹介されました。

以上、すべての取り組みは、全国各地で教育活動にご尽力いただいているライフセーバーの皆様が存在なくしては成し得ないものです。日々、子どもたちと向き合い、水辺の安全を伝え続けてくださっているすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後は、水辺の安全教育をさらに深化させるとともに、自然と関わる豊かさや他者と支え合う関係性を育む視点を取り入れ、ウェルビーイングの実現につながる教育へと発展させてまいります。安全にとどまらず、水辺を通じて「よりよく生きる力」を育むことを目指し、社会全体への価値創出に取り組んでまいります。



e-Lifesaving

競技推進事業

ライフセービング競技会の開催

大会名	開催日	会場	参加数
第3回全日本ライフセービング・IRB 競技選手権大会	5月17日～18日	小田の浜海岸（宮城県気仙沼市）	7チーム60名
第38回全日本ライフセービング種目別選手権大会	6月21日～22日	夕日ヶ浦海岸（京都府京丹後市）	48チーム289名
全日本ジュニアマスターズライフセービング選手権大会 2025	9月6日～7日	岩井海岸（千葉県南房総市）	27チーム317名
第40回全日本学生ライフセービング選手権大会	9月20日～21日	御宿中央海岸（千葉県夷隅郡御宿町）	44チーム775名
第17回全日本ユースライフセービング選手権大会	10月4日～5日	白浜大浜海岸（静岡県下田市）	20チーム247名
第51回全日本ライフセービング選手権大会	10月11日～13日	片瀬西浜海岸（神奈川県藤沢市）	53チーム665名
第25回オーシャンサーフチャレンジ in 白浜 2025	10月25日～26日	白良浜海水浴場（和歌山県白浜町）	10チーム106名
The Beach Flags Series 2025	11月8日～9日	宮下公園（東京都渋谷区）	70名
第1回全日本ユースライフセービング・SERC 選手権大会	12月6日	静岡県立水泳場（静岡県静岡市）	9チーム43名
第5回全日本学生ライフセービング・SERC 選手権大会	12月6日	静岡県立水泳場（静岡県静岡市）	26チーム127名
第5回全日本ライフセービング・SERC 選手権大会	12月7日	静岡県立水泳場（静岡県静岡市）	26チーム145名
プール競技記録会 ～栃木県～	12月13日	栃木県立温水プール館（栃木県小山市）	12チーム41名
全日本ジュニアユースマスターズ ライフセービング・プール競技選手権大会 2025	1月17日～16日	静岡県立水泳場（静岡県静岡市）	29チーム399名
第17回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会	2月14日～15日	日環アリーナ栃木（栃木県宇都宮市）	37チーム487名
第38回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会	2月21日～22日	東京アクアティクスセンター（東京都江東区）	38チーム536名

■事業実施の背景

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、

結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながる。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア（小学生）、ユース（中学生／高校生）、学生、社会人など幅広い。



選手強化等事業

< 協賛：(株)三洋物産 / (株)三洋販売 > ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

■強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月19～20日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉） 御宿海岸（千葉）	強化合宿
5月10～11日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉） 九十九里海岸（千葉）	強化合宿
5月24～25日	HPT-A, B, C	三浦海岸（神奈川）	神奈川県選手権に出場
6月7日	TWG2025 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	TWG2025 選手の強化
6月29日	HPT-A, B, C	栃木温水プール館（栃木）	プール遠征メンバーの選考レース
7月13日	TWG2025 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	TWG2025 選手の強化
7月20日	TWG2025 日本代表	AQiT（イトマン東京強化校）	TWG2025 選手の強化
8月30～31日	ISRC2025 日本代表	御宿海岸（千葉）	ISRC2025 選手の強化
9月23日	OrangeCup 遠征メンバー	AQiT（イトマン東京強化校）	OrangeCup 選手の強化
10月18～19日	OrangeCup 遠征メンバー	AQiT（イトマン東京強化校）	OrangeCup 選手の強化
10月25～26日	ISRC2025 日本代表	御宿海岸（千葉）	ISRC2025 選手の強化
11月2～3日	ISRC2025 日本代表	御宿海岸（千葉）	ISRC2025 選手の強化
11月15～16日	OrangeCup 遠征メンバー	AQiT（イトマン東京強化校）	OrangeCup 選手の強化
12月13～14日	HPT-A, B	日本体育大学荏原高校（東京）	強化合宿
12月27～29日	HPT-C	GMO アスリーツパーク湯の丸（長野）	強化合宿
1月13日	HPT-A, B, C	AQiT（イトマン東京強化校）	強化合宿
2月1日	HPT-A, B, C	海の森競技場（東京都） 江戸川陸上競技場（東京都）	強化合宿
3月28～29日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉） 御宿海岸（千葉）	強化合宿

■国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

日程	大会名	会場	内容
8月7日～9日	The World Games 2025	中華人民共和国 成都市	—
11月26～30日	INTERNATIONAL SURF RESCUE CHALLENGE 2025	ニュージーランド マウント・マウンガヌイ	オープン：4位 / 11 か国 ユース：5位 / 7 か国
11月28～30日	Oraege Cup 2025	オランダ ロッテルダム	—

スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
9月8日	西新小学校5年生 151名	シーサイドももち海浜公園（福岡）	学校交流プログラム
11月30日	朝日スポーツクラブ会員（小学生）	朝日スポーツクラブ BIG-S 網島店（神奈川）	プール競技の体験普及
12月6日	高校生	静岡県立水泳場（静岡県）	SERC の普及向上

ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
4月19日	アンチ・ドーピング研修会	HPT-A.B.C、サポートスタッフ	53名
5月25日	第27回神奈川ライフセービング選手権大会 アウトリーチプログラム	育成選手・サポートスタッフ・保護者	107名
6月3日	第38回全日本ライフセービング 種目別選手権大会前 アウトリーチプログラム（オンライン）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	3名
9月	第40回全日本学生ライフセービング選手権大会前 アウトリーチプログラム（オンライン録画）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	27名
10月	第51回全日本ライフセービング選手権大会前 アウトリーチプログラム（オンライン録画）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	30名
10月11～12日	第51回全日本ライフセービング選手権大会 アウトリーチプログラム	競技会参加アスリート・サポートスタッフ・保護者	109名
10月18日	アンチ・ドーピング研修会（オンライン）	OrangeCUP 日本代表・サポートスタッフ	11名
10月26日	アンチ・ドーピング研修会	ISRC2025 オープン日本代表・サポートスタッフ	15名
10月26日	アンチ・ドーピング研修会	ISRC2025 ユース日本代表・サポートスタッフ	22名
11月6日	アンチ・ドーピング研修会（オンライン）	ISRC2025 ユース日本代表の保護者・サポート スタッフ	32名
1月	第17回全日本学生ライフセービング・プール 競技選手権大会前 アンチ・ドーピング講座（オンライン録画）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	27名
1月17～18日	第12回全日本ジュニアユース・プール競技選 手権大会 アウトリーチプログラム	競技会参加アスリート・育成選手・サポートスタッ フ・保護者	236名
2月	第38回全日本ライフセービング・プール競技 選手権大会前 アンチ・ドーピング講座（オンライン録画）	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	22名
2月21～22日	ドーピング検査 第38回全日本プール競技選手権大会検査対象者	競技会参加アスリート	実施人数 非公開

ライフセービング日本代表

以下の国際大会に日本代表を派遣した。

■ The World Games 2025

[主 催] 国際ワールドゲームズ協会
(International World Games
Association)

[日 程] 2025 年 8 月 7 日 (木)
～ 8 月 9 日 (土)

[場 所] 中華人民共和国・成都市

[オフィシャルゴールドパートナー]

株式会社三洋物産

株式会社三洋販売

[オフィシャルサポーター]

株式会社クレーマー・ジャパン

TWG 2025 日本代表

監督	
植木 将人	オープン監督
団長	
入谷 拓哉	JLA 理事長
コーチ	
坂本 陸	HPT コーチ
トレーナー	
細川 英範	HPT トレーナー
専門スタッフ	
吉沢 幸花	スポーツ栄養士
サポートスタッフ	
平野 玲奈	JLA 理事 / 国際室
審判員	
栗栖 清浩	競技審判委員会
選手 (オープン) 10 名	
・女子 5 名	
名須川 紗綾	茅ヶ崎 SLSC
待井 ひなた	湯河原 LSC / 東海大学湘南
三井 結里花	館山 SLSC
山田 純葉	湯河原 LSC / 日本体育大学
山田 結	白浜 LSC / 日本体育大学
・男子 5 名	
猪股 大地	銚子 LC
関口 広太	大竹 SLSC / 早稲田大学
西山 俊	茅ヶ崎 SLSC
原 柊太	白浜 LSC / 日本体育大学
繁田 龍之介	湯河原 LSC



TWG2025 日本代表選手



TWG2025 日本代表選手

INTERNATIONAL SURF RESCUE CHALLENGE 2025

[主催] Surf Life Saving New Zealand (SLSNZ)
 [日程] 2025 年 11 月 26 日 (水) ~ 30 日 (日)
 [場所] マウント・マウンガヌイ (ニュージーランド)
 [オフィシャルゴールドパートナー]
 株式会社三洋物産
 株式会社三洋販売
 [オフィシャルサポーター]
 アルコインターナショナル株式会社
 株式会社クレーマー・ジャパン
 [JLA 役員]
 入谷 拓哉 / JLA 理事長
 田村 憲章 / JLA 常務理事, ライフセービングスポーツ本部長
 水川 雅司 / 事務局員

ISRC 2025 オープン日本代表

監督	
植木 将人	オープン監督
北矢 宗志	ユース監督
コーチ	
小林 海	HPT コーチ
出木谷 啓太	HPT コーチ
葺本 康隆	HPT コーチ
遊佐 雅美	HPT コーチ
トレーナー	
加藤 義明	トレーナー
清水 伸子	トレーナー
専門スタッフ	
相澤 汐里	スポーツ栄養士
松本 恵	スポーツ栄養士
サポートスタッフ	
北野 可奈	国際室
巖真 風夏	国際室
選手 (オープン) 12 名	
・女子 6 名	
田崎 沙楽※	BMD Northcliffe SLSC
石黒 七都	下田 LSC
小久保 琴音	湯河原 LSC
名須川 紗綾	茅ヶ崎 SLSC
浜地 沙羅	西浜 SLSC
三井 結里花	館山 SLSC
・男子 6 名	
新川 将吾※	西浜 SLSC
相澤 虎大	西浜 SLSC / 下田 LSC
上野 凌	西浜 SLSC
園田 俊	西浜 SLSC
西山 俊	茅ヶ崎 SLSC
森下 広大	鴨川 LSC

※キャプテン

ISRC 2025 ユース日本代表

選手 (ユース) 11 名	
・女子 5 名	
成海 幸波※	館山 SLSC
塚根 小夏	湘南 GoldenAge アカデミー
中西 裕愛	KITAJIMAQUATICS
花塚 聖奈	西浜 SLSC
柳 輝於	KITAJIMAQUATICS
・男子 6 名	
浜地 權依※	西浜 SLSC
岡安 海斗	CLIFTON SLSC
片桐 稜馬	日本体育大学荏原高等学校 LSC
小松 壮	館山 SLSC
高田 夏都	KITAJIMAQUATICS
高田 理世	西浜 SLSC

※キャプテン



ISRC 2025 オープン日本代表



ISRC 2025 ユース日本代表

■ Orange Cup 2025

[主 催] REDDINGSBRIGADE

Nederland

[日 程] 2025 年 11 月 28 日 (水) ～
30 日 (日)

[場 所] ロッテルダム (オランダ)

[オフィシャルゴールドパートナー]

株式会社三洋物産

株式会社三洋販売

[オフィシャルサポーター]

株式会社クレーマージャパン

Orange Cup 2025 派遣選手団

コーチ	
安藤 秀	HPT コーチ
坂本 陸	HPT コーチ
トレーナー	
細川 英範	HPT トレーナー
チームマネージャー	
青木 将展	ライフセービングスポーツ副本部長
選手 (オープン) 9 名	
・女子 4 名	
甚内 優那	茅ヶ崎 SLSC / 東海大学湘南
高津 奈々	西浜 SLSC
待井 ひなた	大磯 LSC / 東海大学湘南
山田 結	白浜 LSC / 日本体育大学
・男子 5 名	
内野 隼	慶應義塾大学
関口 広太	大竹 SLSC / 早稲田大学
瀬良 紘太	館山 SLSC
原 柊太	白浜 LSC / 日本体育大学
堀田 恵路	九十九里 LSC



Orange Cup 2025 派遣選手団



The World Games 2025 競技結果

種目名	選手	タイム
メドレーリレー (4 × 50m) 【男子】	猪股、関口、繁田、西山	失格
メドレーリレー (4 × 50m) 【女子】	名須川、待井、山田純、山田結	01 分 44 秒 42 (7位)
マネキンリレー (4 × 25m) 【男子】	関口、西山、原、繁田	01 分 05 秒 37 (5位) 日本新
マネキンリレー (4 × 25m) 【女子】	名須川、三井、待井、山田純	01 分 18 秒 87 (5位) 日本新
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) 【男子】	猪股、関口、繁田、西山、	01 分 42 秒 81 (5位) 日本新
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) 【女子】	名須川、待井、三井、山田結	02 分 03 秒 92 (7位)



TWG 2025



International Surf Rescue Challenge 2025 オープン日本代表 競技結果

種目名		TEST1			TEST2			TEST3		
		選手名	順位	pt	選手名	順位	pt	選手名	順位	pt
男子個人	サーフレース	上野 凌	10 位	7	上野 凌	12 位	5	上野 凌	4 位	9
								新川 将吾	DNS	
	サーフスキーレース	園田 俊	DNF		西山 俊	15 位	4	西山 俊	15 位	5
		新川 将吾	DNF		園田 俊	17 位		園田 俊	19 位	
	ボードレース	相澤 虎大	中止		相澤 虎大	8 位	7	相澤 虎大	11 位	5
		園田 俊	中止		園田 俊	18 位		園田 俊	16 位	
	オーシャンマン M	新川 将吾	中止		園田 俊	10 位	5	相澤 虎大	11 位	6
		相澤 虎大	中止		相澤 虎大	14 位		園田 俊	17 位	
女子個人	サーフレース	森下 広大	3 位	9	森下 広大	4 位	8	森下 広大	4 位	8
		森下 広大	6 位	6	森下 広大	6 位	7	森下 広大	5 位	7
	サーフスキーレース	田崎 沙楽	1 位	11	田崎 沙楽	3 位	10	田崎 沙楽	4 位	8
		小久保 琴音	13 位		小久保 琴音	13 位		小久保 琴音	14 位	
	ボードレース	田崎 沙楽	DNF		田崎 沙楽	10 位	6	田崎 沙楽	9 位	7
		名須川 紗綾	DNF		名須川 紗綾	12 位		名須川 紗綾	10 位	
	オーシャンウーマン M	浜地 沙羅	中止		浜地 沙羅	8 位	6	田崎 沙楽	9 位	8
		田崎 沙楽	中止		田崎 沙楽	14 位		浜地 沙羅	14 位	
男子団体	レスキューチューブレスキュー	田崎 沙楽	中止		田崎 沙楽	6 位	9	田崎 沙楽	4 位	8
	ビーチリレー	三井 結里花	中止		三井 結里花	DNF		三井 結里花	15 位	
		石黒 七都	2 位	10	石黒 七都	2 位	10	石黒 七都	1 位	11
女子団体	レスキューチューブレスキュー	石黒 七都	7 位	6	石黒 七都	6 位	6	石黒 七都	6 位	7
	ビーチリレー	上野 凌、西山 俊 相澤 虎大、園田 俊	中止		上野 凌、西山 俊 相澤 虎大、園田 俊	5 位	9	上野 凌、西山 俊 相澤 虎大、園田 俊	3 位	9
		森下 広大、園田 俊 相澤 虎大、西山 俊	4 位	10	西山 俊、園田 俊 相澤 虎大、森下 広大	7 位	7	西山 俊、園田 俊 相澤 虎大、森下 広大	7 位	7
男女混合	ボードレスキュー	上野 凌、相澤 虎大	中止		上野 凌、相澤 虎大	7 位	7	上野 凌、相澤 虎大	2 位	10
	レスキューチューブレスキュー	小久保 琴音、三井 結里花 名須川 紗綾、浜地 沙羅	中止		小久保 琴音、三井 結里花 名須川 紗綾、浜地 沙羅	4 位	9	小久保 琴音、三井 結里花 名須川 紗綾、浜地 沙羅	4 位	9
	ビーチリレー	石黒 七都、小久保 琴音 浜地 沙羅、名須川 紗綾	7 位	7	石黒 七都、小久保 琴音 浜地 沙羅、名須川 紗綾 (B 決勝)	2 位	4	石黒 七都、小久保 琴音 浜地 沙羅、名須川 紗綾	8 位	4
男女混合	ボードレスキュー	三井 結里花、浜地 沙羅	中止		三井 結里花、浜地 沙羅	7 位	6	三井 結里花、浜地 沙羅	4 位	8
	ミックスボードリレー	相澤 虎大、浜地 沙羅	中止		相澤 虎大、浜地 沙羅	7 位	6	相澤 虎大、浜地 沙羅	9 位	5
	ミックスサーフスキーリレー	園田 俊、名須川 紗綾	中止		西山 俊、名須川 紗綾	8 位	5	西山 俊、名須川 紗綾	9 位	5
	サーフチームレース	田崎 沙楽、上野 凌 園田 俊、小久保 琴音	中止		田崎 沙楽、小久保 琴音 上野 凌、園田 俊	5 位	8	田崎 沙楽、上野 凌 園田 俊、小久保 琴音	6 位	7
男女混合	オーシャン M ライフセーバーズリレー	田崎 沙楽、相澤 虎大 西山 俊、石黒 七都	中止		田崎 沙楽、相澤 虎大 西山 俊、石黒 七都	7 位	6	田崎 沙楽、相澤 虎大 西山 俊、石黒 七都	6 位	7

International Surf Rescue Challenge 2025 ユース日本代表 競技結果

種目名		TEST1			TEST2			TEST3		
		選手名	順位	pt	選手名	順位	pt	選手名	順位	pt
男子個人	サーフレース	小松 壮	10 位	3	小松 壮	10 位	3	高田 夏都	11 位	2
		高田 夏都	13 位		高田 夏都	11 位		小松 壮	12 位	
	サーフスキーレース	浜地 權依	中止		浜地 權依	8 位	3	浜地 權依	12 位	2
		高田 理世	中止		高田 理世	DNF		高田 理世	14 位	
	ボードレース	小松 壮	中止		浜地 權依	8 位	4	浜地 權依	3 位	5
		浜地 權依	中止		高田 理世	14 位		高田 理世	5 位	
	オーシャンマン	高田 理世	中止		高田 理世	9 位	3	浜地 權依	11 位	2
		浜地 權依	中止		浜地 權依	DNF		高田 理世	14 位	
	ビーチフラッグス	片桐 稜馬	5 位	3	岡安 海斗	3 位	5	片桐 稜馬	5 位	3
	ビーチスプリント	岡安 海斗	3 位	5	片桐 稜馬	4 位	5	岡安 海斗	3 位	6
女子個人	サーフレース	柳 輝於	8 位	3	柳 輝於	9 位	3	柳 輝於	12 位	2
		中西 裕愛	DNF		中西 裕愛	13 位		中西 裕愛	14 位	
	サーフスキーレース	成海 幸波	中止		成海 幸波	10 位	3	成海 幸波	13 位	2
		花塚 聖奈	中止		塚根 小夏	DNS		塚根 小夏	14 位	
	ボードレース	塚根 小夏	中止		塚根 小夏	11 位	2	塚根 小夏	10 位	2
		花塚 聖奈	中止		成海 幸波	DNF		成海 幸波	12 位	
	オーシャンマン	塚根 小夏	中止					成海 幸波	DNF	
		成海 幸波	中止					塚根 小夏	DNF	
	ビーチフラッグス	花塚 聖奈	3 位	5	花塚 聖奈	4 位	4	花塚 聖奈	5 位	3
	ビーチスプリント	塚根 小夏	7 位	2	塚根 小夏	7 位	2	花塚 聖奈	7 位	2
男子団体	レスキューチューブレスキュー	小松 壮、高田 夏都 岡安 海斗、片桐 稜馬	中止		高田 夏都、浜地 權依 岡安 海斗、片桐 稜馬	DSQ		小松 壮、高田 夏都 岡安 海斗、片桐 稜馬	4 位	4
	ビーチリレー	岡安 海斗、高田 夏都 片桐 稜馬、高田 理世	6 位	3	岡安 海斗、片桐 稜馬 小松 壮、高田 理世	2 位	6	岡安 海斗、片桐 稜馬 小松 壮、高田 理世	2 位	6
	ボードレスキュー	浜地 權依、高田 理世	中止		浜地 權依、高田 理世	7 位	2	浜地 權依、高田 理世	DSQ	
女子団体	レスキューチューブレスキュー	塚根 小夏、柳 輝於 成海 幸波、花塚 聖奈	中止		塚根 小夏、柳 輝於 成海 幸波、花塚 聖奈	5 位	4	中西 裕愛、柳 輝於 成海 幸波、花塚 聖奈	4 位	4
	ビーチリレー	花塚 聖奈、塚根 小夏 中西 裕愛、柳 輝於	6 位	3	花塚 聖奈、塚根 小夏 中西 裕愛、柳 輝於	6 位	3	花塚 聖奈、塚根 小夏 中西 裕愛、柳 輝於	6 位	3
	ボードレスキュー	塚根 小夏、成海 幸波	中止		塚根 小夏、成海 幸波	7 位	2	塚根 小夏、花塚 聖奈	6 位	3
男女混合	ミックスボードリレー	高田 理世、塚根 小夏	中止		浜地 權依、塚根 小夏	6 位	2	浜地 權依、花塚 聖奈	6 位	2
	ミックスサーフスキーリレー							高田 理世、成海 幸波	7 位	2
	サーフチームレース	小松 壮、浜地 權依 成海 幸波、柳 輝於	中止		小松 壮、高田 夏都 中西 裕愛、柳 輝於	5 位	4	中西 裕愛、柳 輝於 小松 壮、高田 夏都	5 位	3
	オーシャン M ライフセーバーズリレー	成海 幸波、高田 理世 浜地 權依、塚根 小夏	中止					成海 幸波、高田 理世 浜地 權依、塚根 小夏	6 位	3

International Surf Rescue Challenge 2025 オープン日本代表 総合結果

順位	TEST1		TEST2		TEST3		TOTAL	
	国名	pt	国名	pt	国名	pt	国名	pt
1 位	New Zealand	96	Australia	229	Australia	230	Australia	550
2 位	Australia	91	New Zealand	216	New Zealand	212	New Zealand	524
3 位	South Africa	78	South Africa	168	South Africa	175	South Africa	421
4 位	Spain	72	Japan	150	Japan	160	Japan	376
5 位	Japan	66	Great Britain	146	USA	148	Great Britain	348
6 位	USA	62	USA	133	Great Britain	142	USA	343
7 位	Great Britain	60	Spain	126	Spain	129	Spain	327
8 位	Hong Kong	34	Germany	65	Hong Kong	80	Hong Kong	174
9 位	Singapore	16	Hong Kong	60	Germany	72	Germany	150
10 位	Germany	13	Singapore	12	Singapore	23	Singapore	51
11 位	Netherlands	3	Netherlands	6	Netherlands	10	Netherlands	19

International Surf Rescue Challenge 2025 ユース日本代表 総合結果

順位	TEST1		TEST2		TEST3		TOTAL	
	国名	pt	国名	pt	国名	pt	国名	pt
1 位	Australia	50	Australia	147	Australia	147	Australia	344
2 位	South Africa	45	New Zealand	116	New Zealand	129	New Zealand	288
3 位	New Zealand	43	South Africa	113	South Africa	109	South Africa	267
4 位	USA	34	USA	74	USA	73	USA	181
5 位	Japan	27	Japan	60	Japan	61	Japan	148
6 位	Spain	12	Spain	42	Spain	53	Spain	107
7 位	Germany	0	Germany	2	Germany	2	Germany	4



ISRC 2025 オープン日本代表



ISRC 2025 ユース日本代表

Orange Cup 2025

■競技結果

選手名	障害物スイム (200m)	マネキンキャリアー (50m)	レスキュー メドレー (100m)	マネキンキャリアー ウィズフィン (100m)	マネキントゥ ウィズフィン (100m)	スーパー ライフセーバー (200m)
甚内 優那	棄権	棄権	棄権		棄権	棄権
高津 奈々	2分16秒34 5/42位	35秒76 8/81位	1分14秒26 5/40位	55秒60 6/64位	1分07秒90 24/79位	
山田 結				1分00秒42 19/64位	1分09秒43 32/79位	2分58秒80 36/64位
内野 隼	2分03秒86 8/48位	31秒88 26/115位	1分06秒56 15/81位	55秒56 47/97位		DSQ
関口 広太		30秒03 10/115位	1分06秒24 13/81位	51秒71 28/97位	01分01秒69 48/97位	2分23秒63 27/64位
瀬良 紘太	1分57秒58 4/42位	32秒91 38/115位	1分05秒32 10/81位	53秒40 38/97位	01分03秒06 51/97位	
原 柊太		29秒61 7/115位	1分04秒11 8/81位	51秒25 24/97位	59秒20 39/97位	2分22秒25 23/64位
堀田 恵路	1分57秒23 3/42位	29秒47 4/115位	1分01秒53 5/81位	53秒49 39/97位		2分19秒57 18/64位

種目名	選手	タイム
障害物リレー (4 × 50 m) (男子)	瀬良、堀田、関口、内野	1分39秒69 2/46位
マネキンリレー (4 × 25m) (男子)	関口、堀田、原、内野	1分07秒51 3/48位
メドレーリレー (4 × 50m) (男子)	堀田、関口、瀬良、原	1分31秒65 3/48位
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) (男子)	内野、瀬良、堀田、原	DSQ
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) (混合)	山田、高津、原、関口	1分58秒79 3/48位
ラインスロー (女子)	高津、山田	DNF
ラインスロー (男子)	内野、関口	35秒87 36/90位



全日本シリーズ

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント	SERC ポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ	59	20	20	19
2位	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	53	18	19	16
3位	湯河原ライフセービングクラブ	48	17	16	15
4位	白浜ライフセービングクラブ	41	10	17	14
5位	大磯ライフセービングクラブ	39	13	8	18
6位	鴨川ライフセービングクラブ	39	15	12	12
7位	九十九里ライフセービングクラブ	32	14	18	
8位	日本体育大学荏原高等学校ライフセービングクラブ	31	8	14	9

全日本学生シリーズ<男子>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント	SERC ポイント
1位	日本体育大学	60	20	20	20
2位	東海大学湘南	55	19	17	19
3位	早稲田大学	54	17	19	18
4位	順天堂大学	30	12	1	17
5位	日本大学	28	13	15	
6位	慶應義塾大学	25	7	18	
7位	明治大学	25	18	7	
8位	流通経済大学	25	1	8	16

全日本学生シリーズ<女子>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント	SERC ポイント
1位	日本体育大学	59	19	20	20
2位	東海大学湘南	58	20	19	19
3位	順天堂大学	52	18	16	18
4位	慶應義塾大学	50	16	18	16
5位	日本女子体育大学	44	17	10	17
6位	早稲田大学	42	10	17	15
7位	筑波大学	32	6	12	14
8位	中央大学	29	15	14	

全日本ジュニアシリーズ

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント
1位	湘南 GoldenAge アカデミー	40	20	20
2位	西浜サーフライフセービングクラブ	38	19	19
3位	湯河原ライフセービングクラブ	35	17	18
4位	鎌倉ライフガード	35	18	17
5位	勝浦ライフセービングクラブ	31	16	15
6位	牧之原ライフセービングクラブ	30	14	16
7位	湘南ひらつかライフセービングクラブ	27	13	14
8位	館山サーフライフセービングクラブ	25	15	10

全日本ユースシリーズ< U-15 >

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ	39	20	19
2位	KITAJIMAQUATICS	37	17	20
3位	鎌倉ライフガード	36	19	17
4位	湘南 GoldenAge アカデミー	34	18	16
5位	十文字中学・高等学校ライフセービングクラブ	33	15	18
6位	湯河原ライフセービングクラブ	31	16	15
7位	勝浦ライフセービングクラブ	27	14	13
8位	下田ライフセービングクラブ	25	11	14

全日本ユースシリーズ< U-18 >

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント	SERC ポイント
1位	日本体育大学荏原高等学校ライフセービングクラブ	59	19	20	20
2位	西浜サーフライフセービングクラブ	57	20	19	18
3位	館山サーフライフセービングクラブ	53	17	17	19
4位	昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ	45	14	14	17
5位	十文字中学・高等学校ライフセービングクラブ	32	16	16	
6位	KITAJIMAQUATICS	31	13	18	
7位	銚子ライフセービングクラブ	26	11	15	
8位	柏崎ライフセービングクラブ	24	12	12	

全日本マスターズシリーズ

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャン ポイント	プール ポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ	40	20	20
2位	日本体育大学荏原高等学校ライフセービングクラブ	34	16	18
3位	南伊豆ライフセービングクラブ	34	17	17
4位	銚子ライフセービングクラブ	33	14	19
5位	湯河原ライフセービングクラブ	33	18	15
6位	館山サーフライフセービングクラブ	32	19	13
7位	九十九里ライフセービングクラブ	24	8	16
8位	勝浦ライフセービングクラブ	23	15	8

ライフセービングスポーツ本部総括



ライフセービング
スポーツ本部
本部長 田村 憲章

2025年度のライフセービングスポーツ本部は、「命を守るスポーツ」というライフセービングの本質的価値を軸に、競技力向上のみならず、社会的価値の発信と地域連携を重視したスポーツ推進事業を展開した一年となりました。

国際競技においては、世界を舞台にライフセービング日本代表選手たちが挑戦を続け、ライフセービングスポーツの競技力向上と国際的な存在感の向上を推進しました。LWC2024で達成した国別総合6位という成果や、世界トップレベルでの競技実績は、日本のライフセービングスポーツが着実に成長していることを示しています。また、The World Games 2025 や INTERNATIONAL SURF RESCUE CHALLENGE 2025 への出場を通じて、ライフセービングスポーツの価値と可能性を世界へ発信する機会となりました。

国内では、日本ライフセービング協会主催の11大会を経て、競技会が単なる勝敗を競う場ではなく、「水辺の安全・教育」と「地域」を結びつける場としての価値を高めています。競技会開催地域においては、地域クラブや行政、関係団体と連携しながら、水辺の安全教育や普及活動を展開し、ライフセービング文化の浸透を図りました。

ライフセービングスポーツは、水辺の事故を減らし、命を守るという公益性を有する希少なスポーツです。競技スポーツとしての魅力に加え、溺水防止、安全教育、人材育成といった社会的価値を持つことが大きな特徴であり、社会から求められる「意義あるスポーツ」として、その存在意義を高めています。

また、今後のライフセービングスポーツ事業は、単なるスポーツイベント運営ではなく、地域に存在する自然環境、人的資源、既存施設を有効に活用しながら、水辺の安全教育および交流事業を一体的に展開するライフセービングスポーツのモデル構築を目指しています。このモデルでは、国際大会・国内大会を一過性のイベントとして終わらせるのではなく、開催地域にライフセービング文化を定着させることを重視しています。さらに、地域におけるライフセービングを担うリーダー的人材を育成し、持続可能な地域文化として発展させることを目的としています。その実現に向けて、「市町」「地域クラブ」「JLA 都道府県協会」「日本ライフセービング協会」が相互に連携し、それぞれの地域特性を活かしたライフセービングスポーツ事業を推進していきます。

加えて、スポーツ医科学、アンチ・ドーピング、競技運営など各分野においても継続的な取り組みを進めました。

ライフセーバーシップを備えたライフセーバーたちによる「命を守るスポーツ」の価値を社会へ広げ、水辺の事故ゼロをめざすとともに、地域社会と共に発展するライフセービングスポーツの未来を築いて参ります。



第 51 回全日本ライフセービング選手権大会 総合優勝 西浜サーフライブセービングクラブ



第 51 回全日本ライフセービング選手権大会



その他の事業

国際交流事業

国際ライフセービング連盟 (ILS) 役員及び専門委員会等

(事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟 (ILS) への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS 主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILS の戦略プランの遂行に貢献する。

【2025 年度トピック】

■ ILS 理事会 / 委員会

世界溺水防止会議 (2025 年 11 月 / エジプト) に合わせて対面で、理事会が開かれた。会議の合間には様々な団体や組織との打ち合わせがあり、各国から今後の JLA の国際的な場面での貢献に期待を感じられた。

■ 世界溺水防止デー

国連決議で毎年 7 月 25 日が「World Drowning Prevention Day 世界溺水防止デー」と宣言された。日本国内の情報発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

■ 豪日交流基金

豪日交流基金から、Next Wave Japan-Australia Lifesaving Exchange & Leadership Program への助成が採択され、全 3 本のプログラムのうち「オーストラリア研修」・「ナショナルリーダーシップカレッジ」と 2 本のプログラムを実施。また、3 本目のプログラムとして、2026 年 7 月に 4 名のオーストラリア人ライフセーバーを日本へお招きし、日本におけるライフセービング、Water Safety を体験いただく予定である。なお、豪日交流基金は 2026 年で設立 50 周年を迎えた。

■ モナコ公妃シャルレーヌ財団助成事業

2017 年よりプロジェクトごとに助成を受け、2024-2026 年プロジェクトでは、親子向けのウォーターセーフティパンフレットの制作、全日本ジュニア選手権における大会ラッシュ、別途記載のミクロネシア派遣プロジェクトの助成をいただいた。親子向けのパンフレットは全国のライフセービングクラブを中心に海辺にて安全に楽しく過ごしてもらうための説明を行いながら配布を行った。

また今年是大阪・関西万博 2025 のモナコデーにおいて、関西地域のライフセービングに取り組む子どもたちにモナコ・バビリオン見学を財団よりご招待いただいた。翌日は、イトマンスイミング様のご協力のもと、入江陵介さん、大橋悠依さんとともにウォーターセーフティの講習が実施され、財団関係者には活動を見学いただいた。

・ ミクロネシア連邦

Water Safety Project 実施

アジア太平洋ウォーターセーフティプロジェクト委員会 (特別委員会) を立ち上げ、ミクロネシア連邦における Water Safety Project を実施。

JLA グランドデザイン 2061 アクションプラン 2031 にある「アジアパシフィックの一員として近隣諸国との連携推進」に向けて、2025-2026 年のモノコ公妃シャルレーヌ財団の助成でミクロネシア連邦のウォーターセーフティを実施。2026 年 2 月 17 日から 23 日にかけてミクロネシア連邦ポンペイ州へ委員 2 名を派遣が実現。

現地では 3 つの小学校や 1 つの大学、1 スイミングクラブで合計約 220 名にウォーターセーフティ講習を実施。泳力のある方には実践形式での講習も実施した。海や川だけでなく、雨水を貯めて生活用水にする水タンクでの事故も起きており、西太平洋地域では 5 - 14 歳の死因 1 位が溺水という厳しい状況とともに、現地でのウォーターセーフティのニーズの高さより、継続的な取り組みを今後も検討していきたい。



豪日交流基金助成プログラム



モナコ公妃シャルレーヌ財団助成事業

■国際ライフセービング連盟（ILS）役員及び専門委員会等

▽中川 容子

ILS 理事、ILS アジア太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission
・ ILS、各国組織、団体及び WHO との連絡調整
・ 世界溺水防止デーについて国内で啓発
・ 国際会議出席など

▽石川 仁憲

Rescue Commission

・ LS Position statements の改訂・新規作成、WCDP 関連、対外連携等

▽栗栖 清浩

Lifesaving Sport Regulations Committee

・ ILS 競技規則改定審議及び競技規則の公開、LWC ハンドブック準備、今後の競技種目検討等

▽出木谷 啓太

Athletes Commission

・ 競技者の視点におけるライフセービングスポーツの繁栄・発展のための活動

▽錦織 功延

Therapeutic Use Exemptions Committee

・ ILS 主催大会への TUE 申請の承認の可否の協議
・ WADA が発行する TUE についての最新の知識共有

▽田中 秀治

Medical Committee

・ メディカル委員会

▽田村 憲章

Sports Commission

・ スポーツ委員会

広報活動事業

■ SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー ユーザー数
公式 JLA サイト	284,943 PV (前年比 103%) 158,391 人 (前年比 95%)
公式 LIFESAVING サイト	594,424 PV (前年比 99%) 116,258 人 (前年比 91%)

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	6,765 (前年比 105%)
インスタグラム @jla_lifesaving	6,486 (前年比 148%)
インスタグラム @lifesaver_japan	4,898
X	2,728
YouTube	3,929
TikTok	589

■ 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	42

■メディア取材対応

媒体名	件数
新聞	17
テレビ・ラジオ	48
雑誌	25
Web サイト	15

■ アニュアルレポートの発行

「2024 年度事業報告」を編集して冊子発行した。

■ 2025 Water Safety キャンペーン

6 月 15 日～8 月 31 日に水辺の安全を呼びかけた。

【強化 week】

7 月 11 日～7 月 25 日

「水辺の事故ゼロ」Week

8 月 1 日～8 月 17 日

「飲んだら、泳ない。」Week

【啓発動画】

2 本の啓発動画を作成、SNS で周知広報した。



世界溺水防止会議



国際ライフセービング連盟 理事会

2025年度表彰

特別功労賞

阿部 健

前 JLA アカデミー副本部長

JLA アカデミー本部副本部長として、永年にわたり資格認定事業の責任者として人格的な姿勢も示され、指導員数は倍以上に増えた。広報室アカデミー担当委員としても貢献された。

木村 智美 (茅ヶ崎 SLSC) / 国際室委員

モナコ公妃シャルレーヌ財団助成事業をプロジェクトマネージャーとして永年牽引し、ジュニア世代のウォーターセーフティ教育に貢献された。

文珠寺 裕之 (下田 LSC) / 前 監事

JLA が NPO 法人の時から5期、10年に渡り、監事として理事会の事業監査と会計監査において適正な助言をいただき、JLAの組織運営に貢献された。

功労賞

多胡 誠 (鎌倉 LG)

JLA アカデミー本部サーフライフセービング委員会委員を務められ、指導員養成をはじめ講習会の発展に貢献された。

弓削 匠 (九十九里 LSC)

JLA アカデミー本部サーフライフセービング委員会委員を務められ、指導員養成をはじめ講習会の発展に貢献された。

平藤 昌寛 (西浜 SLSC)

ライフセービングスポーツ本部競技安全委員会委員長を務められ、同委員会立ち上げよりライフセービング競技会の安全運営に貢献された。

加藤 圭織 (鎌倉 LG)

ライフセービングスポーツ本部競技安全委員会委員を務められ、地域クラブにおいても責任者を務め、同委員会と現場をつなぐ橋渡し役として貢献された。

松永 祐 (九十九里 LSC)

ライフセービングスポーツ本部競技安全委員会委員を務められ、審判員として多数の競技会に参加し運営を支え、審判技術の向上や後進育成に貢献された。

神崎 智大

前 JHPT トレーナー

ライフセービングスポーツ本部ハイパフォーマンスチームトレーナーを務められ、ライフセーバーのコンディショニングに貢献された。

山口 智史 (下田 LSC)

救助救命本部パトロール・レスキュー委員会、ドローンパトロール委員会、広報室委員を務められ、ライフセービングの発展に貢献された。



ライフセーバーオブザイヤー 2025 ～ロンランキンアワード～

■救命賞

佐藤 文机子

救助救命本部

パトロール・レスキュー委員会

ドローンパトロール委員会

メディカルコントロール委員会

シミュレーション審査会を通して地域行政、公的救助機関との連携を積極的に実施、認定海水浴場事業を通して海水浴場における実態調査、レスキューミーティング開催、ドローンオペレーター従事、公的救助機関IRB講習会指導員など、これらの活動を通じて、ライフセービングの高度化事業に著しく貢献された。

■スポーツ賞

特定非営利活動法人

京都府ライフセービング協会

ライフセーバーの活動がない地域において、全国で初めて全日本ライフセービング種目別選手権を招致し、多くの機関と協力・連携を深め開催された。夕日ヶ浦の素晴らしいロケーションと地域協力体制を活かし、多様な人が集まり楽しむ空間を創出された。地元地域の幅広い世代の方が資格認定講習会を受講され、来年度、夕日ヶ浦ライフセービングクラブの設立に向け、地域としてはブルーフラッグ取得に向けて取り組まれており、スポーツをきっかけにライフセービングの普及を加速させる機会となった。

■教育賞

慶應義塾幼稚舎ライフセービングクラブ

「カヌスラで海そなえ」事業において、全14回に渡り指導支援を精力的に行い、本事業初年度の成功に大きく貢献された。また、器材助成事業に一次募集より応募され、多くの資料作成を含む準備を円滑に行い、ジュニア教育へ積極的に取り組まれた。



関係諸団体との連携推進

関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程 内容 会場
都道府県協会 意見交換会	11月22日 ・本部報告及び意見交換 ・TKP 札幌（北海道札幌市） ハイブリッド開催

他団体との連携・協力

■一般社団法人 日本サーフィン連盟

（継続）JLA 理事長が理事に選任（2023）

（継続）パートナーシップ協定の締結

（2018-6/7）

（継続）WSUPPC 世界大会への選手派遣

■公益財団法人 日本水泳連盟

（継続）パートナーシップ協定の締結

（2024-3/19）

（継続）OWS事業協力の締結（2016-

2/26）

（継続）日本水泳連盟主催OWS競技

会及び国民体育大会等の安全担当

員及びライフセーバー派遣

■公益社団法人 日本水難救済会

（継続）水難事故救助・防止に関する協定

の締結（2023-4/24）

■公益社団法人 日本ローイング協会

（継続）パートナーシップ協定の締結

（2023-7/19）

■NPO法人神奈川県ライフセービング協会

（継続）包括協定の締結（2023-4/1）

■公益財団法人 日本スポーツ協会

（継続）承認団体として加盟（2023）

■一般社団法人 日本スポーツ政策推進機構

（継続）一般会員として団体加盟（2023）

■UMI協議会

（継続）活動会員として団体加盟（2023）

■一般社団法人 日本水路協会

（継続）「沿岸海域の総合管理のための

地形データの整備プロジェクト」委員派遣

（2023）

■気象庁

（継続）水難事故防止・防災に関する協定

（2020-12/24）

（継続）津波旗講演会/講師派遣

（継続）津波旗啓発ポスター、リーフレット、

デモ映像普及協力

■海上保安庁

（継続）事故防止対策等に関する協定

（2017-3/15）

（継続）「海の安全推進本部・海の安全推

進アドバイザー」委員委嘱

（継続）水辺の安全教育プログラム推進

「e-Lifesaving」制作協力

■消費者庁

（継続）「消費者安全調査委員会専門委員」

委嘱

■スポーツ庁

（終了）委託事業「令和の日本型学校体育
構築支援事業」

（継続）「水泳等の事故防止について（通知）」

（継続）「スポーツ施設等安全管理講習会

指導員派遣協力（通知）」

（継続）ICT教育コンテンツ

「e-Lifesaving」情報提供

■公益社団法人 トライアスロンジャパン

（継続）パートナーシップ協定の締結

（2016-3/16）

（継続）日本トライアスロン連合主催競技

会及び国民体育大会等への安全担当員

及びライフセーバー派遣

■一般社団法人 日本マスターズ水泳協会

（継続）パートナーシップ協定の締結

（2018-7/27）

（継続）日本マスターズ水泳協会主催競

技会へのライフセーバー派遣

■特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会

(継続)正会員として団体加盟

(継続)JLA事務局長が監事として選任

■一般社団法人 日本救護救急学会

(継続)JLAメディカルダイレクター他役員

が理事として選任

■一般社団法人 救急救命士統括体制認定機構

(継続)JLA理事長が理事、そのほか専門委員が統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として選任

■一般社団法人 吉川慎之介記念基金

(終了)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力

■公益財団法人 河川財団

(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力

■御宿町(千葉県)

(継続)相互協力協定の締結(2015-12/15)

(継続)IOT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2019年運用開始)

■高浜町(福井県)

(継続)IOT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2021年運用開始)

■鎌倉市(神奈川県)

(継続)IOT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2022年運用開始)

■下田市(静岡県)

(継続)IOT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入(2023年運用開始)

■恩納村(沖縄県)

(継続)IOT監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入(2025年運用開始)

■宮古島市(沖縄県)

(新規) IOT 監視救助システム「海辺の見まもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入(2025年新規開発)

■神奈川県

(継続)海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る連携と協力に関する包括協定締結(2020-6/19)

■牧之原市(静岡県)

(継続)「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結(2022-5/9)

■国際武道大学(千葉県)

(継続)「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結(2021-4/1)

■学校法人 国士館(東京都)

(継続)「ドローンを活用した防災・救急救助の発展とそれに係る人材の育成・交流に関する包括協定」締結(2022-7/1)

「ダメ、ゼッタイ。」普及運動

全世界的に広がりを見せている薬物乱用問題に取り組むために、厚生労働省医薬局が主催として取り組む「ダメ、ゼッタイ。」普及運動にJLAが後援団体として参加し、ポスターやリーフレットに後援団体としてJLAの名義が掲載され、都道府県ライフセービング協会、加盟ライフセービングクラブを通じて学生ライフセーバーへ薬物乱用防止を啓発した。

認定海水浴場認証事業

<日本財団助成事業>

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で41か所となっている。

新規認証5か所

1. 大久保浜海水浴場（東京都三宅村）
2. 前浜第4海水浴場（東京都新島村）
3. 中の浦海水浴場（東京都新島村）
4. 土肥海水浴場（静岡県伊豆市）
5. 小土肥海水浴場（静岡県伊豆市）

更新認証8か所

※更新3年

1. 小田の浜海水浴場（宮城県気仙沼市）
2. 御宿中央海水浴場（千葉県夷隅郡御宿町）
3. 黒根海水浴場（東京都新島村）
4. 泊港海水浴場（東京都新島村）
5. 湘南ベルマーレひらつかビーチパーク海水浴場（神奈川県平塚市）
6. 吉浜海水浴場（神奈川県湯河原町）
7. 静波海水浴場（静岡県牧之原市）
8. 相良サンビーチ海水浴場（静岡県牧之原市）

リスク評価1か所

（ブルーフラッグ）

1. いなげの浜海水浴場（千葉県千葉市稲毛区）

海のそなえプロジェクト

<日本財団助成事業>

4団体のコンソーシアムにてプロジェクトに取り組んだ。本協会では「全国における水難事故の実態調査分析及びナショナルデータ構築」と「ウォーターセーフティ・ナショナルカリキュラムの開発」に取り組んだ。

<4団体>

- ・公益財団法人日本財団
- ・一般財団法人うみらい環境財団
- ・公益社団法人日本水難救済会
- ・公益財団法人日本ライフセービング協会

<プロジェクト>

- ・水難事故に関する調査
- ・水難事故防止教育プログラムの開発
- ・フローティングアイテム普及推進
- ・海のそなえ普及コンテンツ開発
- ・情報発信（シンポジウム等の開催）



2025年度 組織概要

日本ライフセービング協会の理念

我々のめざす社会

ビジョン *VISION*

水辺の事故ゼロ

ミッション *MISSION*

水辺における安全知識と技能を広め、
誰もが安全に楽しむことのできる社会へ。

ミッションを実現するための8つの戦略

ストラテジー *STRATEGY*

- Strategy1 ライフセービングを通じた生命教育の普及
- Strategy2 認定ライフセーバーの育成
- Strategy3 先端技術による安心安全な水辺空間の創出
- Strategy4 ライフセービングの職業化
- Strategy5 ライフセービングスポーツの発展
- Strategy6 アジアパシフィックを中心とした国際貢献
- Strategy7 都道府県協会・加盟クラブへの支援
- Strategy8 ライフセービング支援者の創出

1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会〈初代理事長／金子 邦親〉」が設立されました。2001年にこれまでの任意団体としての役割を経て「特定非営利活動法人日本ライフセービング協会〈前理事長／小峯 力〉」となり、2019年に公益法人の認定を受け「公益財団法人日本ライフセービング協会〈理事長／入谷 拓哉〉（以下、JLAという）」として新たにスタートしました。

日本のライフセービング界を代表して国際ライフセービング連盟に加盟する唯一の団体として、国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監

視・救助、防災、防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的としています。水辺の事故ゼロをめざし、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「教育」「救命」「スポーツ」「環境」「福祉」（＝JLAヒューマンチェーン）といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。また、ライフセービングのさらなる発展をめざした戦略としてJLA グランドデザイン 2061を掲げ、水辺の事故ゼロをめざして全国のライフセーバーとともに、誰もが安全知識を持ち、水辺を安全に楽しめる社会の創造に努めています。

ヒューマンチェーン

生命尊厳を通じた社会への貢献

ヒューマンチェーンとは、救助者同士の手首を互いにつかみ（人間の鎖）、水没した溺者を捜索する方法です。ライフセービングでは「ライフセービングそのものを学び、実践していくこと」「ライフセービングによって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇める、という歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。



スイム&サバイブ

水辺の危険を理解し生きる力を学ぶ

水の特性を知り、さらに水辺（海、河川、湖沼、プール、池、水路ほか）にはどのような危険があるのかを十分理解し、泳ぎの基本を学ぶことと同時に、その危険に自ら対処する方法（スイム&サバイブ）を体得していれば、いろいろな活動体験を通じて安心して多くの学びや感動を得ることができます。

事故防止の基本的な考え方として、特に自然環境下の活動では、時間的・空間的に変化する危険な場所を理解し、その対応を考えることができる能力が求められます。

JLA は、水辺における様々な活動において危険な状況にならないように、「楽しみながら安全を考えて行動できる能力」を身につけるための教育を進めています。

SWIM&SURVIVE



組織概要

組織関係図

日本ライフセービング協会（以下 JLA）は、国際ライフセービング連盟（以下 ILS）の正会員として、アジア太平洋地区に属している日本代表機関です。JLA グランドデザイン 2061 に沿って、役員、専門委員会、事務局が事業計画を立て、全国の都道府県ライフセービング協会および加盟クラブとともに、関係諸機関、各方面からの、寄付、協賛、助成、協力をいただき、水辺の事故ゼロをめざして活動しています。



International Life Saving Federation(ILS)

国際ライフセービング連盟

Africa Region
アフリカ地区

Americas Region
アメリカ地区

Asia-Pacific Region
アジア・パシフィック地区

Europe Region
ヨーロッパ地区



JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION(JLA)

公益財団法人
日本ライフセービング協会

【都道府県ライフセービング協会】
本協会に加盟した、該当する都道府県に所在する
第1種及び第2種クラブによって構成される。

都道府県ライフセービング協会（30 協会）

北海道	岩手県	山形県	宮城県	福島県	新潟県
福井県	茨城県	千葉県	東京都	神奈川県	静岡県
愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	鳥取県	島根県
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
福岡県	長崎県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県

【第3種、4種、5種、6種クラブ】
学校法人によって認められ組織された
クラブを教育機関クラブと称する。

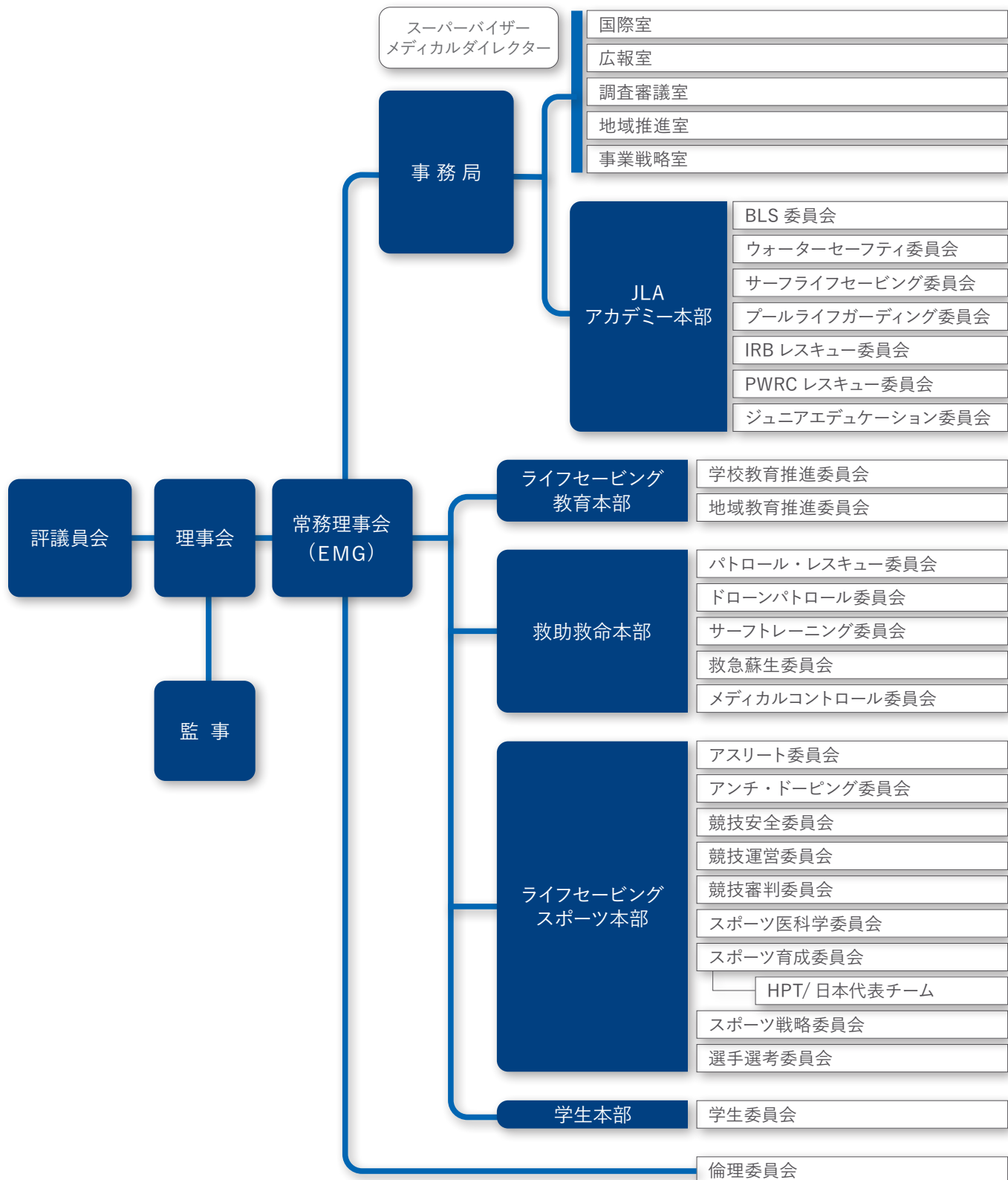
加盟クラブ

第1種
第2種

加盟クラブ

第3種 第5種
第4種 (大学) 第6種 (高校)

組織図



2026 年 3 月 31 日現在

役員・専門委員会・事務局・加盟団体

■評議員

青木 伸一
大阪大学工学研究科 名誉教授・工学博士

伊藤 一博
トライアスロンジャパン常務理事・技術委員長

岩並 秀一
東京湾海難防止協会理事長・元海上保安庁長官（第45代）

小峯 力
中央大学 教授、博士（救急救命学）

鈴木 大地
初代スポーツ庁 長官、日本水泳連盟 会長

千葉 景子
弁護士、元法務大臣

横田 裕行
日本医科大学名誉教授・医学博士 / 救急医学・
日本救急医療財団理事長

■理事

理事長

入谷 拓哉（EMG 統括）

副理事長

高野 絵美（広報室）
松本 貴之（ライフセービング教育本部）

常務理事

石川 仁憲（救助救命本部）
田村 憲章（ライフセービングスポーツ本部）

理事

鎌田 綾子（調査審議室、倫理委員会）
白井 勇喜（学生本部）
中川 容子（国際室）
平野 玲奈（事業戦略室）
細田 直彦（地域推進室）

■監事

工藤 孝志
岡田 千枝

■スーパーバイザー

足立 正俊
飯沼 誠司
上野 真宏
小峯 力
豊田 勝義
中見 隆男
山本 利春

■メディカルダイレクター

中川 儀英
東海大学医学部救命救急医学 教授

田中 秀治
国士館大学大学院救急システム研究科 教授

鍛冶 有登
岸和田徳洲会病院 救命救急センター長

北村 伸哉
君津中央病院 副院長・君津地域救急業務メディカルコン
トロール協議会会長

朽方 規喜
日産自動車グローバル本社 産業医

■顧問

江口 満
一般社団法人日本海洋レジャー安全・振興協会理事長

鈴木 美昭
元株式会社電通 執行役員、日本トライアスロン連合 顧問

鷲見 全弘
元日本水泳連盟 常務理事

■ライフメンバー

金子 邦親（故人）
JLA 初代理事長

相澤 重男
日本ライフセービング評議会議長、元 JLA 理事

遠藤 義晴
SLSA-J 初代表

築山 由雄
SLSA-J 代表、元 JLA 専務理事、元 JLA 常務理事

中見 隆男
JLGA 副会長、元 JLA 専務理事

田中 裕（故人）
JLGA 初代副会長、元 JLA 理事

足立 正俊
SLSA-J 副代表、元 JLA 理事

相澤 千春
元 ILS 理事

久松 晶子
元豪日交流基金オーストラリア・リソースセンター長

■JLA ACADEMY 本部

本部長 / 佐藤 洋二郎
副本部長 / 小田 眞木子・江川 陽介・関口 義和

▼BLS委員会

安田 春暁（委員長）
今堀 加奈子・谷川 真莉菜・浜田 博孝

▼ウォーターセーフティ委員会

竹内 啓（委員長）
小笠原 宏之・小林 利浩・篠田 敦子
長崎 靖子・一條 恵理子

▼サーフライフセービング委員会

関口 義和（委員長）
内田 直人・木島 悠太郎・吹田 光弘
宮田 沙依

▼プールライフガーディング委員会

大塚 敏幸（委員長）
秋葉 佑貴・久條 美佳
佐藤 文机子・山本 良徳

▼IRB レスキュー委員会

渡辺 幸男（委員長）
飯塚 剛志・井藤 秀晃・芹澤 祐介

▼PWRC レスキュー委員会

音野 太志（委員長）
河波 弘晃・古中 洋平・宮崎 康夫

▼ジュニアエデュケーション委員会

石原 早織（委員長）
土谷 こころ・中本 恵子・藤井 正弘

■ライフセービング教育本部

本部長 / 松本 貴之
副本部長 / 木島 悠太郎

▼学校教育推進委員会

松本 貴之（委員長）
浅田 勇樹・安達 雄太・井上 佳子
國木 孝治・小崎 遼介・坂本 卓馬
島田 貴史・萩原 隆次郎

▼地域教育推進委員会

木島 悠太郎（委員長）
石井 優愛・石原 早織・高橋 悠
内藤 直樹・中村 佐知子・柳原 拓実

■救助救命本部

本部長 / 石川 仁憲
副本部長 / 菊地 太

▼パトロール・レスキュー委員会

菊地 太（委員長）
小林 俊樹（副委員長）
石川 優太・内田 直人・小山 大介
加藤 智美・門間 智幸・佐藤 文机子
竹内 啓・田原 幸佑・中根 大文・
名取 芳和・古中 信也・松見 吉朗
宮原 光興・藤井 正弘・縄手 大志
原 伸輔・山本 良徳

▼ドローンパトロール委員会

菊地 太（委員長）
浦 公大・小山 大介・加藤 智美
門間 智幸・小林 俊樹・佐藤 文机子
末次 尚之・縄手 大志・藤井 正弘

▼サフトレーニング委員会

出木谷 啓太（委員長）
荒井 洋佑・池端 拓海・内田 直人
榎本 宏暉・榎本 由里・大西 明
落合 慶二・塚越 心

▼救急蘇生委員会

中川 儀英（委員長）
門間 智幸・中根 大文・中山 省吾
福島 圭介・皆藤 竜弥

▼メディカルコントロール委員会

中川 儀英（委員長）
田中 秀治・鍛冶 有登・北村 伸哉
朽方 規喜・菊地 太・宮原 光興
佐藤 文机子・佐藤 洋二郎・関口 義和
大塚 敏幸

■ライフセービングスポーツ本部

本部長 / 田村 憲章
副本部長 / 青木 将展・上野 凌・中島 典子

▼アスリート委員会

西山 俊（委員長）
池端 拓海・石塚 円香・上野 凌
坂本 真徳・塚越 心・出木谷 啓太
斎藤 健一郎・篠 岳瑠

▼アンチ・ドーピング委員会

錦織 功延（委員長）
小西 由紀・島田そら・須田 邦彦

▼競技安全委員会

板垣 俊輔（委員長）
天野 駿介・飯塚 剛志
上野 義洋・江川 陽介・大橋 一輝
金川 もも・鈴木 慎一・高橋 颯
中村 佐知子・成田 光佑・橋本 和樹
宮井 伯武・山本 良徳

▼競技運営委員会

小野 稜平（委員長）
板垣 俊輔・毛利 智・日馬 孝昌

▼競技審判委員会

毛利 智（委員長）
梶本 道彦・栗栖 清浩・日馬 孝昌
南部 孝二・藤田 善照・橋本 和樹
宮川 悠斗・脇田 彰吾
▽SERC 分科会
田中 えりか・坂本 陸・奈良部 真弓
楠本 慶明

▼スポーツ医化学委員会

笠原 政志（委員長）
朽方 規喜・清水 伸子・名須川 紗綾
松本 恵・吉沢 幸花

▼スポーツ育成委員会

青木 将展（委員長）
荒井 宏和・植木 将人・大島 圭介
北矢 宗志・細川 英範
▽IRB 競技分科会
鈴木 慎一・飯塚 剛志・井藤 秀晃
橋本 和樹・芹澤 祐介

▼HPT コーチ・スタッフ

オープン監督 / 植木 将人
ユース監督 / 北矢 宗志
コーチ / 安藤 秀・小田切 伸矢・具志堅 タ
小林 海・坂本 陸・筒井 健裕・出木谷 啓太
平野 修也・葺本 康隆・遊佐 雅美
トレーナー / 加藤 義明・清水 伸子・細川 英範
専門スタッフ / 松本 恵・吉沢 幸花・相澤 汐里
錦織 功延・小西 由紀・橋口 泰一・朽方 規喜
サポートスタッフ / 楠本 佳風子

▼スポーツ戦略委員会

上野 凌（委員長）
新井 大介・小野 稜平・小森 健登
鈴木 耀太・戸向 陽介・平岡 由宇
日馬 孝昌・玉虫 湧也

▼選手選考委員会

田中 憲章（委員長）

■学生本部

本部長 / 白井 勇喜
副本部長 / 梅林 寛人・城田 永

▼学生委員会

徳嶺 仁美（委員長）
梅澤 倫太郎・村山 実優・杉 美月
高橋 かのん・森広 想・松本 勝己
阿部 和香・牛沢 帆夏・熊井戸 里咲

■倫理委員会

青沼 隆之（委員長）/ 弁護士・元名古屋高検 検事長
佐藤 義明（副委員長）/ 成蹊大学法学部 教授
鎌田 綾子（委員）/ JLA 理事

■国際室

中川 容子（室長）
相澤 千春・巖真 風夏・桂 里帆・北野 可奈
木村 智美・小森 健登・高橋 愛海・平野 玲奈
古井 悠太・細井 梨沙

■広報室

高野 絵美（室長）
竹内 啓（JLAアカデミー本部）
巖真 風夏（国際室）
菊地 太（救助救命本部）
安達 雄太（ライフセービング教育本部）
戸向 陽介（ライフセービングスポーツ本部）
平野 玲奈（事業戦略室）

■調査審議室

鎌田 綾子（室長）
尾田 智史（大分県LS協会 代表）
高野 絵美（副理事長）
永井 巧（一般社団法人「そっか」代表）
山口 毅（横浜市立中学校 校長）

■地域推進室

細田 直彦（室長）
田原 幸佑・古橋 理・木島 悠太郎
白井 勇喜

■事業戦略室

平野 玲奈（室長）
▽監視救助事業チーム
入谷 拓哉（リーダー）
井藤 秀晃・諸節 智章・水川 雅司（事務局）
▽イベント安全チーム
石井 英一（リーダー）
音野 太志・河波 弘晃・篠田 敦子
名須川 開渡・古中 洋平・宮崎 康夫
安田 春暁
▽ライフセービング事業チーム
入谷 拓哉（リーダー）
石川 仁憲・上野 凌・音野 太志・菊地 太
佐藤 洋二郎（事務局）
▽ファンドレイジングチーム
平野 玲奈（リーダー）
入谷 拓哉・細田 直彦・高野 絵美
中山 昭（事務局）
▽アクアティック イベント セーフティ コー
ディネーター分科会（ASC）
大平 拓司・小山 大介・楠本 慶明
天野 駿介・堀尾 卓美・平田 和太龍
土居 均・谷口 博信・辻岡 正弘
石丸 英生・直江 宏二・田原 幸佑
山下 丞・立田 謙介

■事務局

川地 政夫（事務局長）
佐藤 洋二郎（事務局次長 / アカデミー本部長）
中山 昭（事業推進役）
水川 雅司・川名 健太郎・蛭間 鮎子
中村 萌夏

【国際ライフセービング連盟（ILS）】

中川 容子
ILS 理事
ILS アジア太平洋地区理事
Drowning Prevention Commission,
Child Drowning Committee

石川 仁憲
Rescue Commission,
Rescue Operations Committee

田村 憲章
Sports Commission

田中 秀治
Medical Committee

栗栖 清浩
Sports Commission,
Lifesaving Sport Regulations
Committee

錦織 功延
Therapeutic Use Exemption Committee

出木谷 啓太
Athletes Commission

【外部専門委員会】

■JLA 海水浴場安全性評価特別委員会

中川 儀英（委員長）
東海大学医学部救命救急医学 教授
青木 伸一
大阪大学工学研究科 名誉教授・工学博士
田中 秀治
国士舘大学大学院救急システム研究科 教授
小峯 力
中央大学 教授、博士（救急救命学）
石川 仁憲
JLA 常務理事 救助救命本部長・工学博士・技術士
音野 大志
一般社団法人 Japan Water Patrol 代表理事

【他団体への派遣】

■海上保安庁

海の安全推進アドバイザー / 石川 仁憲

■消費者庁

消費者安全調査委員会 / 松本 貴之

■一般社団法人 救急救命士統括体制認定機構

理事 / 入谷 拓哉

統括医師研修・認定・更新委員会 / 中川 儀英・福島 圭介

■一般社団法人日本救護救急学会

理事 / 中川 儀英

■公益財団法人日本水泳連盟

セイフティ・オフィサー / 石井 英一・名須川 開渡
篠田 敦子

■公益社団法人日本サーフィン連盟

理事 / 入谷 拓哉

■一般社団法人日本マスターズ水泳協会

安全委員 / 石井 英一・田村 浩志

■特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会

監事 / 川地 政夫

【都道府県ライフセービング協会】

■北海道ライフセービング協会

代表 / 国見 将之

■岩手県ライフセービング協会

代表 / 菊池 健一

■宮城県ライフセービング協会

代表 / 小松 忠男

■山形県ライフセービング協会

代表 / 木村 潤一

■福島県ライフセービング協会

代表 / 今井 恵子

■新潟県ライフセービング協会

代表 / 上森 一利

■福井県ライフセービング協会

代表 / 須藤 竜乃介

■茨城県ライフセービング協会

代表 / 山地 智仁

■千葉県ライフセービング協会

代表 / 林 昌広

■東京都ライフセービング協会

代表 / 佐藤 和伯

■神奈川県ライフセービング協会

代表 / 白井 勇喜

■静岡県ライフセービング協会

代表 / 文珠寺 裕之

■愛知県ライフセービング協会

代表 / 鈴木 雄三

■京都府ライフセービング協会

代表 / 山本 良徳

■大阪府ライフセービング協会

代表 / 鍛冶 有登

■兵庫県ライフセービング協会

代表 / 古中 洋平

■鳥取県ライフセービング協会

代表 / 本田 貴志

■島根県ライフセービング協会

代表 / 柳楽 武臣

■岡山県ライフセービング協会

代表 / 柚木 一郎

■広島県ライフセービング協会

代表 / 藤井 正弘

■山口県ライフセービング協会

代表 / 新名 文博

■徳島県ライフセービング協会

代表 / 住瀬 秋彦

■香川県ライフセービング協会

代表 / 直江 宏二

■愛媛県ライフセービング協会

代表 / 山下 浩

■福岡県ライフセービング協会

代表 / 田原 幸佑

■長崎県ライフセービング協会

代表 / 榎屋 桃花

■大分県ライフセービング協会

代表 / 尾田 智史

■宮崎県ライフセービング協会

代表 / 藤田 和人

■鹿児島県ライフセービング協会

代表 / 山下 丞

■沖縄県ライフセービング協会

代表 / 音野 太志



収支

経常収益（収入）	563,073,793 円
経常費用（支出）	565,187,784 円

貸借対照表

(単位：円)

		当年度	前年度	増減
I	資産の部			
1.	流動資産			
	現金預金	65,178,992	70,691,127	△ 5,512,135
	未収金	30,806,750	20,857,326	9,949,424
	商品	1,401,559	1,645,989	△ 244,430
	前払金	174,600	186,290	△ 11,690
	仮払金	2,287	0	2,287
	流動資産合計	97,564,188	93,380,732	4,183,456
2.	固定資産			
(1)	基本財産			
	基本財産合計			
(2)	特定資産			
	什器備品	14,337,019	7,362,632	6,974,387
	船舶	2,495,931	4,773,215	△ 2,277,284
	受取助成金・寄付金資金	1,521,140	0	1,521,140
	特定資産合計	18,354,090	12,135,847	6,218,243
(3)	その他固定資産			
	建物	3,056,456	3,255,454	△ 198,998
	車両運搬具	0	1	△ 1
	什器備品	1,435,535	2,213,542	△ 778,007
	船舶	2	439,590	△ 439,588
	電話加入権	374,920	374,920	0
	敷金	4,152,700	4,152,700	0
	保証金	596,134	596,134	0
	長期前払費用	13,245	15,511	△ 2,266
	その他固定資産合計	9,628,992	11,047,852	△ 1,418,860
	固定資産合計	27,983,082	23,183,699	4,799,383
	資産合計	125,547,270	116,564,431	8,982,839
II	負債の部			
1.	流動負債			
	未払金	38,943,950	28,250,541	10,693,409
	未払消費税等	4,724,600	3,158,800	1,565,800
	預り金	1,035,536	1,007,883	27,653
	仮受金	0	28,275	△ 28,275
	流動負債合計	44,704,086	32,445,499	12,258,587
2.	固定負債			
	長期借入金	0	7,380,000	△ 7,380,000
	固定負債合計	0	7,380,000	△ 7,380,000
	負債合計	44,704,086	39,825,499	4,878,587
III	正味財産の部			
1.	指定正味財産			
	民間助成金	18,354,090	12,135,847	6,218,243
	指定正味財産合計	18,354,090	12,135,847	6,218,243
	(うち基本財産への充当額)			
	(うち特定資産への充当額)	(18,354,090)	(12,135,847)	(6,218,243)
2.	一般正味財産	62,489,094	64,603,085	△ 2,113,991
	(うち基本財産への充当額)			
	(うち特定資産への充当額)			
	正味財産合計	80,843,184	76,738,932	4,104,252
	負債及び正味財産合計	125,547,270	116,564,431	8,982,839

Greeting from the President

2025 年度を振り返って

2025 年度の事業年度を終えるにあたり、日本ライフセービング協会 (JLA) を代表して、全国のライフセーバー、加盟クラブ・都道府県協会の皆様、そして多大なるご支援を賜りました各協賛社および関係諸機関の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本年度は、当協会が長年積み重ねてきた知見と情熱が、具体的な「制度」として社会に根を下ろし始めた、極めて意義深い一年となりました。「水辺の事故ゼロ」という不変の目標に向かい、私たちがどのように歩みを進めたのか、その足跡をここに報告させていただきます。

本年度、ウォーターセーフティ教育の面で大きな役割を果たしたのが、東京都江戸川区のカヌースラロームセンターにおける「海のそなえプロジェクト」事業です。オリンピックのレガシー施設であり、高度な水流制御が可能な同センターを活用することで、従来の教室での講習では困難であった「動く水」への対応能力を養う場を提供することができました。この事業は、海を訪れる前の市民に対し、水辺の危険を正しく認識し、自らの命を守るための具体的な行動を伝える「水辺の安全教育のフロントライン」として機能いたしました。都市部にいながらにして自然の驚異を疑似体験し、備えを学ぶ。この「海そなえ」のコンセプトが、多くの方々に受け入れられたことは、今後の啓発活動における大きな示唆となりました。

その他にも多岐にわたる事業は、ひとえに当協会の理念に賛同いただき、多大なるご支援を賜りました株式会社三洋物産・株式会社三洋販売、株式会社 SUBARU、ソニー生命保険株式会社をはじめとするパートナー企業の皆様や、日本財団を始めとする助成団体の皆様のご支援なくしては実現し得ないものでした。水辺の安全という、社会全体の幸福に直結する課題に対し、多面的なサポートを継続してくださっている皆様は、私たちにとって単なる支援者を超えた「共創のパートナー」です。皆様からお預かりした貴重なリソースは、ライフセーバーの資質向上、機材の整備、そして何より多くの命を救うための活動へと確実に還元されております。この場を借りて、改めて深い感謝の意を表します。

また、日本のライフセービング界において最も特筆すべき動向は、沖縄県ライフセービング協会による巡回講習事業の実施でした。沖縄の広大な海域において展開されたこの事業は、単なる技術支援の枠を超え、日本における公的な「ライフガード事業」の本格的なスタートを告げるものとなりました。これまで、日本の水辺の安全は各地のボランティアをベースとした活動に深く依存してきましたが、沖縄県協会が行政と連携し、プロフェッショナルな監視業務を「事業」として構築したことは、極めて先駆的な成果です。当協会としても、この沖縄県協会の真摯な取り組みを高く評価しております。これは、ライフセービングが「個人の善意」という枠組みを維持しつつも、並行して「社会のインフラ」としての専門的な責任を担い始めたことを意味します。この沖縄でのモデルは、今後の日本全国における水辺の安全管理のあり方を規定する重要な指標となるでしょう。

2025 年度は、日本のライフセービングが「次なるステージ」へと踏み出した年でした。私たちは、各地域の熱意ある取り組みを尊重しつつ、プロフェッショナルとしての社会的責任を果たすための「事業化」という新たな挑戦を後押ししてまいります。

すべての人々が安心して水辺に親しめる社会の実現に向け、JLA はこれからも歩みを止めることはありません。ライフセーバーの皆様、そしてパートナーの皆様には、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
理事長 入谷 拓哉



Takuya IRITANI

【オフィシャルゴールドパートナー】

株式会社三洋物産
株式会社三洋販売

【オフィシャルパートナー】

株式会社 SUBARU
ソニー生命保険株式会社

【オフィシャルサポーター】

味の素株式会社
アルコ株式会社
ENGINE JAPAN
花王株式会社
株式会社クレマーージャパン
株式会社櫻井興業
東亜建設工業株式会社
株式会社ハーレージャパン

【助成】

モナコ公妃シャルレーヌ財団
公益財団法人日本財団
独立行政法人日本スポーツ振興センター
公益財団法人スポーツ安全協会
公益財団法人業務スーパージャパンドリーム財団
豪日交流基金

【協力】

株式会社明石スクールユニフォームカンパニー
株式会社ゴールドウィン
株式会社TKS
株式会社ポピンズ

【事業協賛・協力】

IRB 普及促進会
株式会社 L-SHIP
スパゲッティとカレーの店 ハッシュ
有限会社ファクトリーゼロ
Black Tide Brewing
Midcoast Marine Japan
合同会社エフォートプラス
株式会社ストロングハート
株式会社 BS 日本（BS 日テレ）
京丹後市
京丹後市観光公社
浜詰区
夕日ヶ浦観光協会
下田市
藤沢市
御宿町
御宿町観光協会
白浜町
一般社団法人南紀白浜観光協会
白浜温泉旅館協同組合
白浜町商工会

【団体寄付】

金子スポーツ振興株式会社
シーズン合同会社
株式会社ストロングハート
株式会社総進技研
ソフトバンクつながる募金
一般財団法人千代田健康開発事業団
京都府京丹後市網野町 浜詰区
株式会社ファミリーコーポレーション
株式会社安田電気工業
ヤフービジネス
株式会社トシダ

【個人寄付】

阿部 拓真	鈴木 岳人	堀 莉奈
阿部 誠	大門 俊介	前 幸治
阿部 海帆	高橋 恭彦	松井 宏泰
板垣船大工店	田中 亮	松本 貴之
大久保 研一	堤 正文	松本 葉子
岡田 美樹	中根 大文	村松 秀紀
小倉 利一	林 安司	文珠寺 裕之
柏 詩央	平野 玲奈	矢吹 一恵
朽方 規喜	廣井 浩二	山本 昌代
工藤 孝志	平藤 昌寛	吉田 剛
篠原 秀和	堀 圭典	
柴崎 啓子		

〈敬称略〉

〈2025 年度〉

お名前記載の表明をされなかった方々を含め、64 名の方より寄付いただきました。
パートナー、助成、事業協賛いただきました皆様、寄付をお寄せいただいた全ての
皆様へ御礼申し上げます。

CONTENTS

02	バトロールログ 2025 トピックス & 集計	28	資格認定事業	58	2025 年度表彰
06	レスキューレポート	35	JLA ACADEMY 本部総括	60	関係諸団体との連携推進
10	加盟クラブ	36	安全・防災教育・環境保全事業	63	2025 年度 組織概要
12	ライフセーバーが活動する海水浴場等	40	ライフセービング教育本部総括	64	—日本ライフセービング協会の理念
14	監視救助事業	41	競技推進事業	66	—組織概要
17	ライフセービング高度化事業	52	全日本年間総合順位	68	—役員・専門委員会・事務局・加盟団体
24	救助救命本部総括	54	ライフセービングスポーツ本部総括	71	—2025 年度財務レポート
26	海のそなえプロジェクト	56	その他の事業	72	理事長挨拶

パートナー



株式会社三洋物産
株式会社三洋販売



株式会社 SUBARU



ソニー生命保険株式会社



味の素株式会社



アルコ株式会社



ENGINE JAPAN



花王株式会社



株式会社クレマー・ジャパン



株式会社櫻井興業



東亜建設工業株式会社



株式会社ハーレー・ジャパン

助成



モナコ公妃シャルレーヌ財団



公益財団法人日本財団



独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ振興くじ



スポーツ振興基金

独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ振興基金



公益財団法人スポーツ安全協会

公益財団法人スポーツ安全協会



Australian Government



豪日交流基金



公益財団法人 業務スーパー・ジャパンドリーム財団

協力



株式会社明石スクールユニフォームカンパニー



株式会社ゴールドウィン



株式会社 TKS



株式会社ポピンズ

日本ライフセービング協会は多くのパートナー・助成をいただき活動しております。<2025 年度>